



## 参考資料

(夕張市地方人口ビジョン及び地方版総合戦略)

平成 28 年 (2016 年) 3 月

夕張市

# 目 次

1	人口分析.....	1
1-1	人口動向分析 .....	1
1-2	将来人口推計 .....	15
1-3	人口の変化が地域の将来に与える影響の分析.....	21
1-4	夕張のもつ資源・強み .....	27
2	アンケート調査結果 .....	31
2-1	調査概要 .....	31
2-2	市民アンケート調査 .....	31
2-3	通勤者アンケート調査 .....	38
2-4	高校生アンケート調査結果 .....	42
2-5	中学生アンケート調査 .....	44
3	ヒアリング調査結果 .....	47

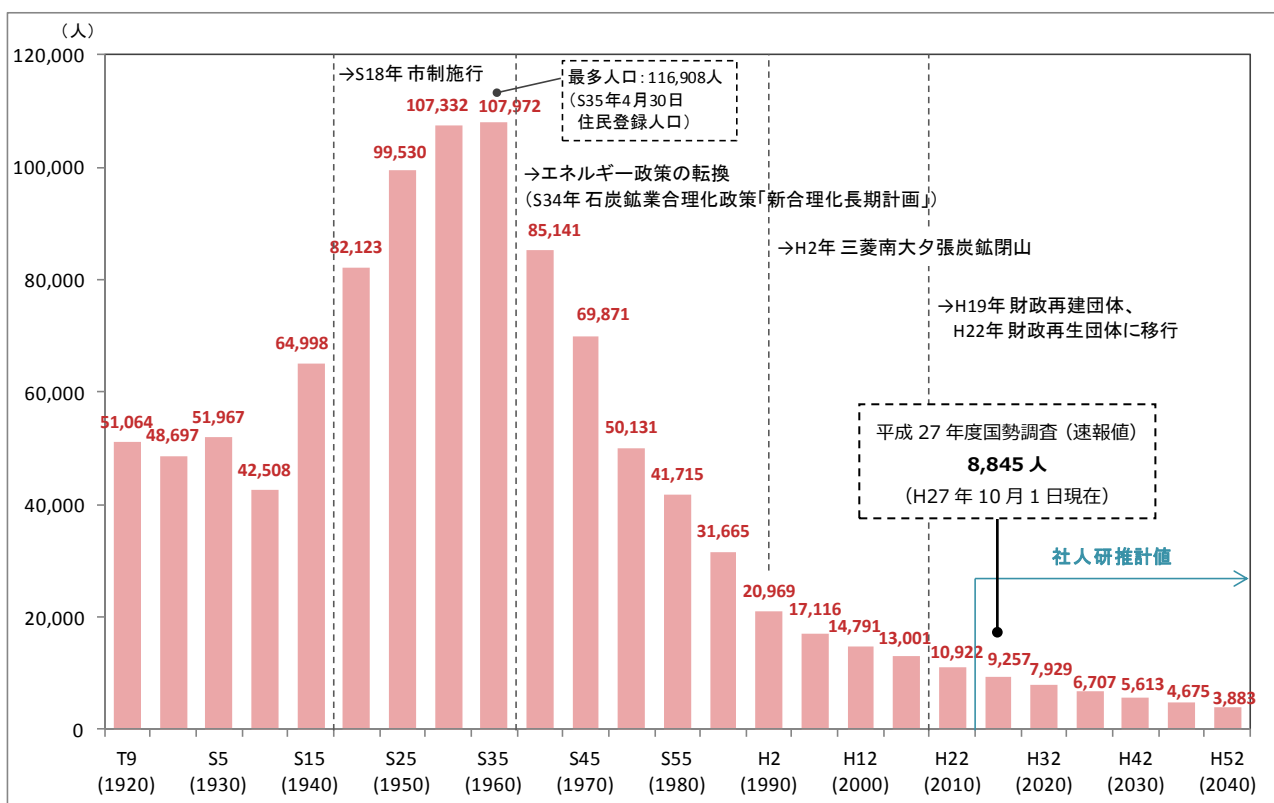
# 1 人口分析

## 1-1 人口動向分析

### (1) 総人口の推移と将来推計

- 夕張市の人口は、昭和 35 年（1960 年）の 107,972 人（住民登録人口としては、昭和 35 年 4 月 30 日現在の 116,908 人）をピークとして減少を続け、平成 22 年（2010 年）には 10,922 人と急激な人口減少・少子高齢化が進んでいる。
- 国立社会保障・人口問題研究所（以下、社人研）によると、夕張市の人口は平成 52 年（2040 年）には 3,883 人となり、平成 27 年（2015 年）現在の半数以下になると推計されている。
- さらに、平成 27 年度国勢調査結果速報によると、平成 27 年（2015 年）10 月 1 日現在における夕張市の人口は 8,845 人、平成 22 年時点から平成 27 年時点にかけての減少率は 19.0%と北海道内で最も高い数値を記録し、前述した社人研推計を超える速度で人口減少が進んでいる。

【図表】 総人口の推移と将来人口推計

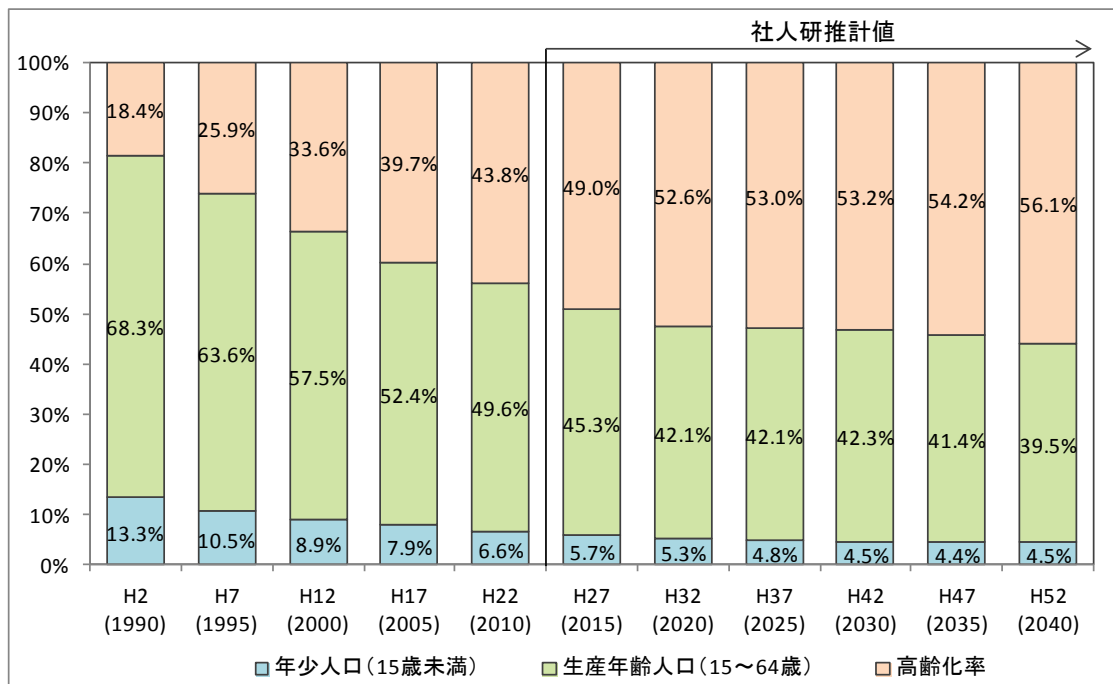
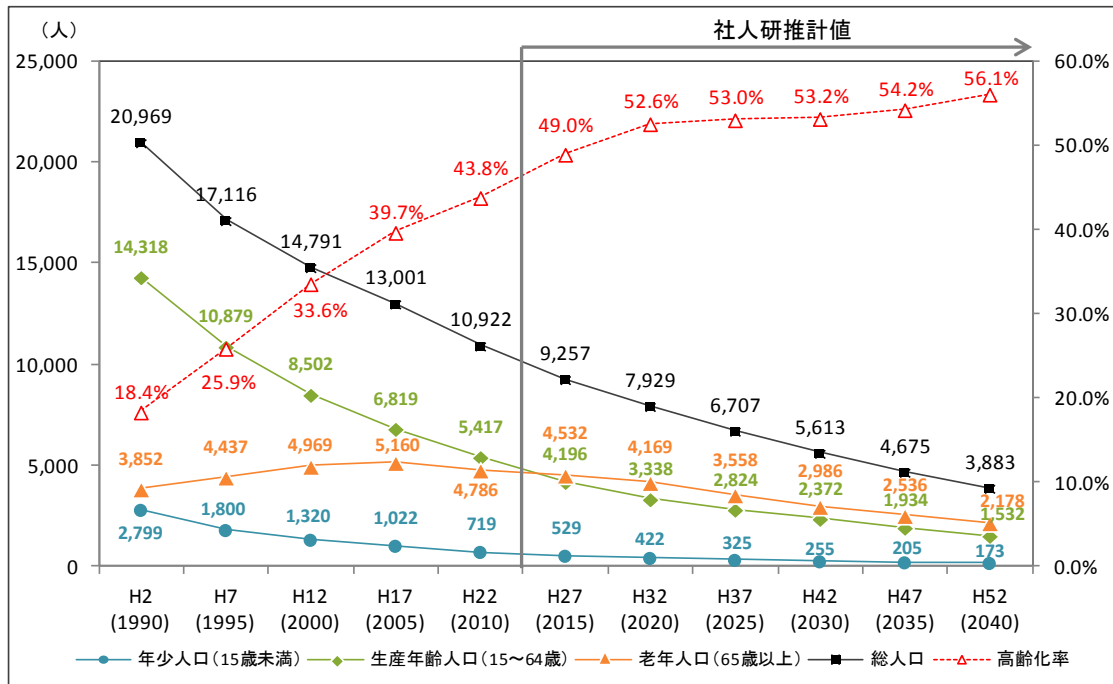


資料: 総務省「国勢調査」(1920年～2010年)、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来人口推計(平成 25 年 3 月推計)」(2015 年～2040 年)

## (2) 年齢3区分別人口の推移と将来推計

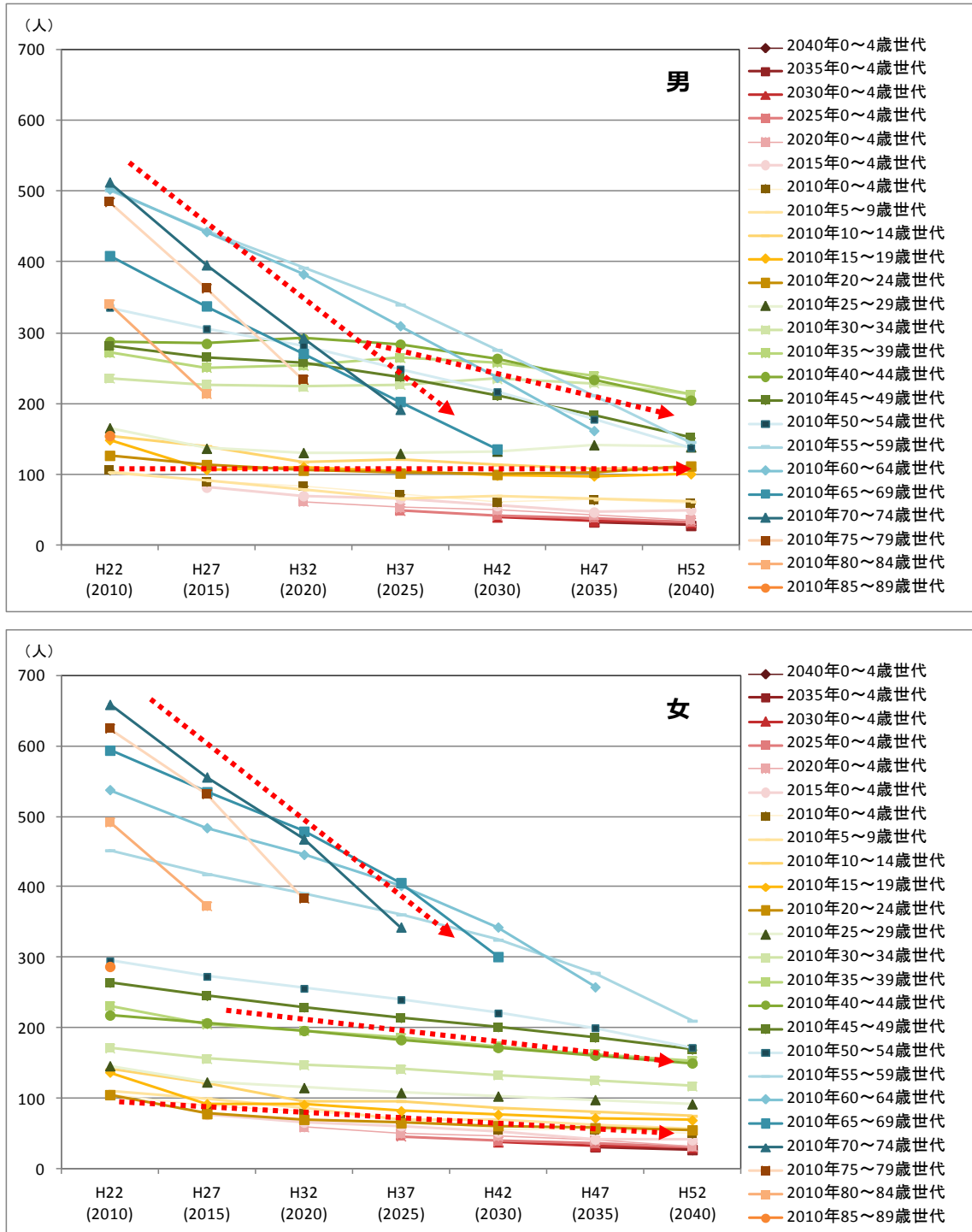
- 高齢化率は平成 27 年（2015 年）現在で約 50%だが、平成 52 年（2040 年）には約 56%と、今後上昇は鈍化する見込みである。
- 世代に着目して将来の人口を推計すると、平成 22 年（2010 年）時点で 50 代以上の世代は、男女ともに急減すると予測され、平成 22 年（2010 年）時点で 30～40 代の世代は、平成 37 年（2025 年）頃から緩やかに減少すると予測される。一方、平成 22 年（2010 年）時点で 10～20 代の世代は、男性は横ばい、女性は微減で推移すると予測される。

【図表】 年齢3区分別人口・高齢化率の推移と将来推計



資料：総務省「国勢調査」(1990年～2010年)、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来人口推計(平成25年3月推計)」(2015年～2040年)

【図表】世代に着目した年齢5歳階級別人口の将来推計



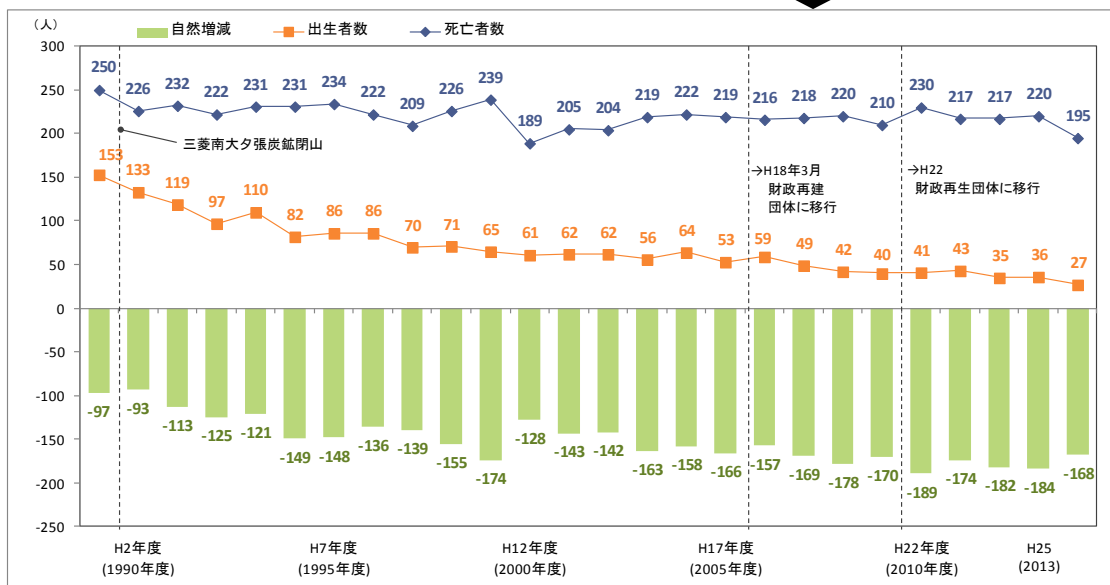
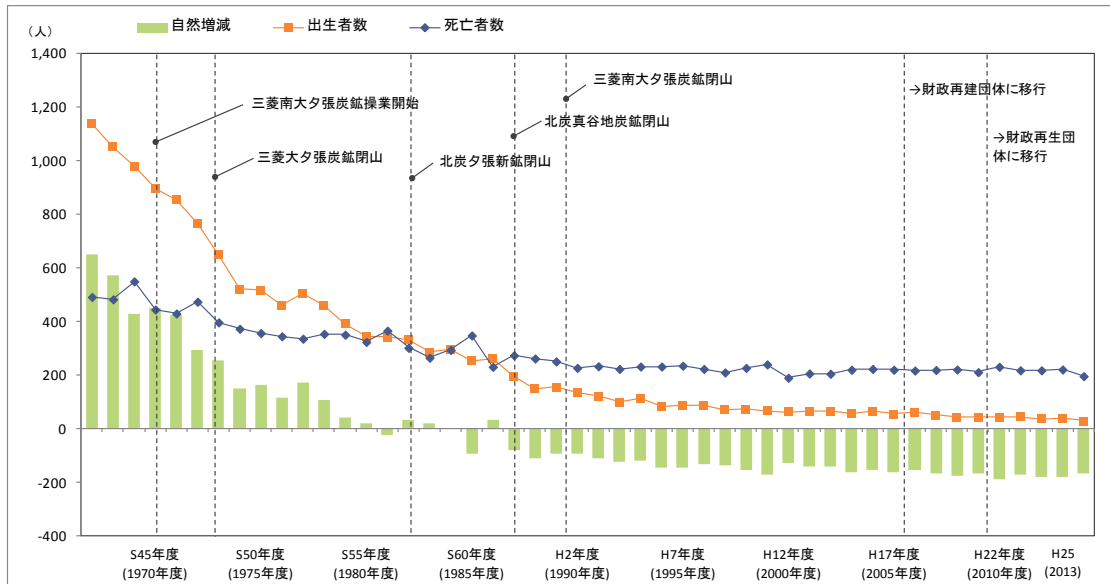
※世代に着目した人口推計の整理の仕方としては、平成22年時点で15~19歳の世代に着目したとき、平成27年は20~25歳、…、平成52年は45~49歳の人口を整理した。  
 ※5歳階級別の世代に着目した推移を示しているため、「90歳以上」の人口は除いて整理している。  
 ※ここでの整理は、男女別年齢・5歳階級別の将来人口推計の結果をもとに作成したものであり、世代ごとに人口推計をしているわけではないことに留意する。

資料: 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来人口推計(平成25年3月推計)」

### (3) 自然増減の推移

- 自然増減とは、出生者数－死亡者数で求められる数のことをいい、これがプラス（出生者数のほうが多い）の場合を自然増加、マイナス（死亡者数のほうが多い）の場合を自然減少という。
- これまでの夕張市における自然増減の推移をみると、昭和 55 年度（1980 年度）頃まで自然増加で推移していたが徐々に減少し、昭和 55 年～62 年（1980 年～1987 年）頃は、自然増加と自然減少を繰り返しながら推移し、昭和 62 年度（1987 年度）以降から自然減少で推移している。
- 直近 25 年間の推移をみると、死亡者数はほぼ同程度で推移しているが、一方で出生者数は緩やかに減少し、自然減少数が緩やかに増大しながら推移している。直近 5 年間は、平均して約 180 人/年の自然減少となっている。

【図表】 自然増減の推移



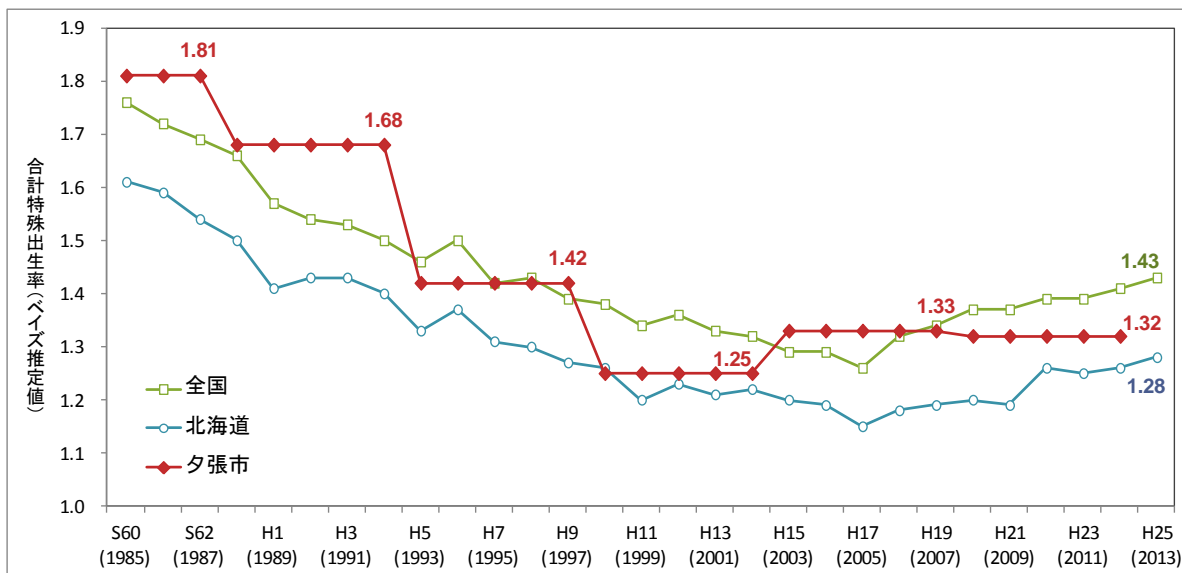
資料：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」

(平成元年度～平成 24 年度は 4 月 1 日～翌年 3 月 31 日の人口動態、平成 25 年以降は 1 月 1 日～12 月 31 日の人口動態) ※調査基準日の変更により、平成 25 年 1 月 1 日～3 月 31 日の出生者数と死亡者数は重複して集計。

#### (4) 出生率に関する分析

- 近年の合計特殊出生率はほぼ横ばいで推移している。合計特殊出生率は、夕張が 1.32、北海道が 1.28、全国が 1.43 で、全国に比べると低いものの、北海道よりも高い数値となっている。

【図表】 合計特殊出生率の推移

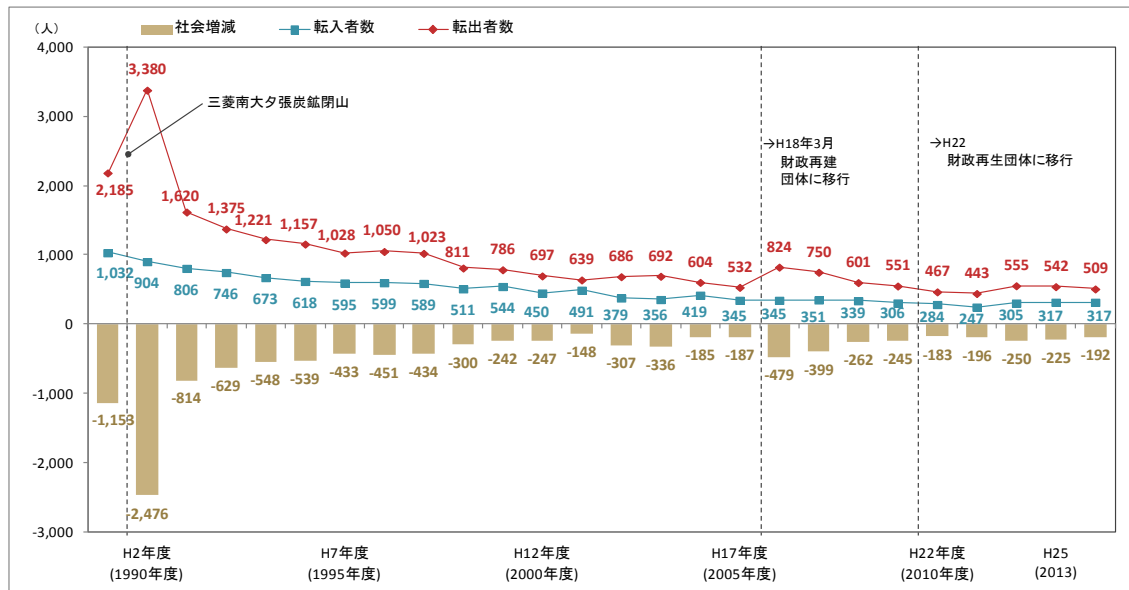
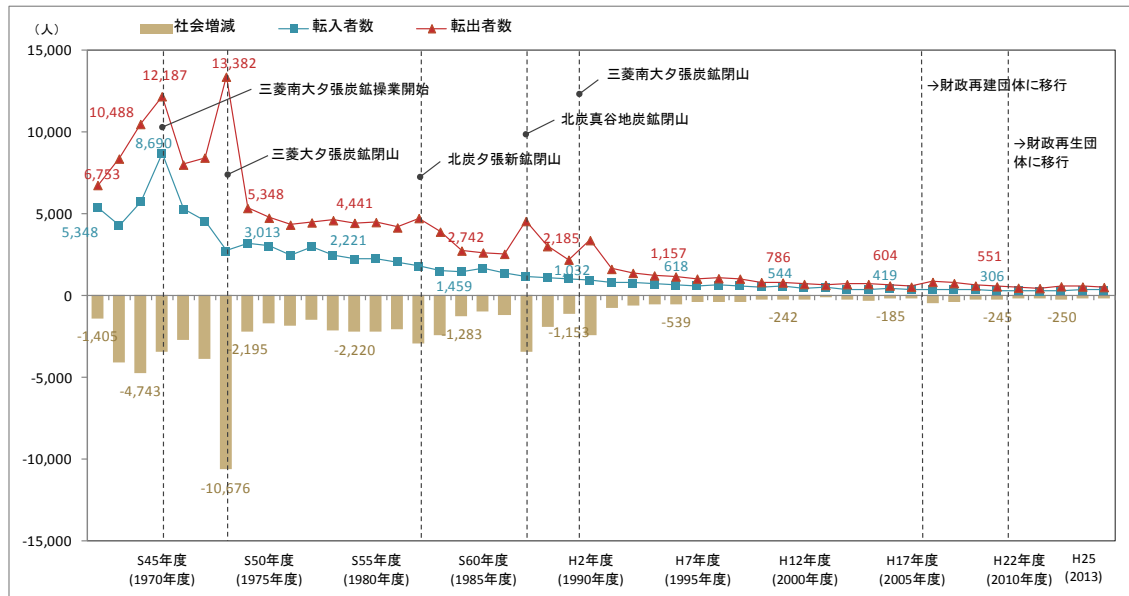


資料: 厚生労働省「人口動態保健所・市町村別統計」

## (5) 社会増減の推移

- 社会増減とは、転入者数－転出者数で求められる数のことをいい、これがプラス（転入者数のほうが多い）の場合を社会増加、マイナス（転出者数のほうが多い）の場合を社会減少という。
- 平成2年度（1990年度）の夕張最後の炭鉱である三菱南大夕張炭鉱の閉山まで、炭鉱の操業開始と閉山の影響を受け、転入者数と転出者数は変動してきた。
- 直近25年の推移をみると、炭鉱閉山後に急増した社会減少は縮小したが、平成18年（2006年）3月の財政破綻により再度社会減少が急増した。財政破綻以降は、社会減少は縮小し、直近5年間、平均して約200人/年で推移している。

【図表】 社会増減の推移



資料：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」

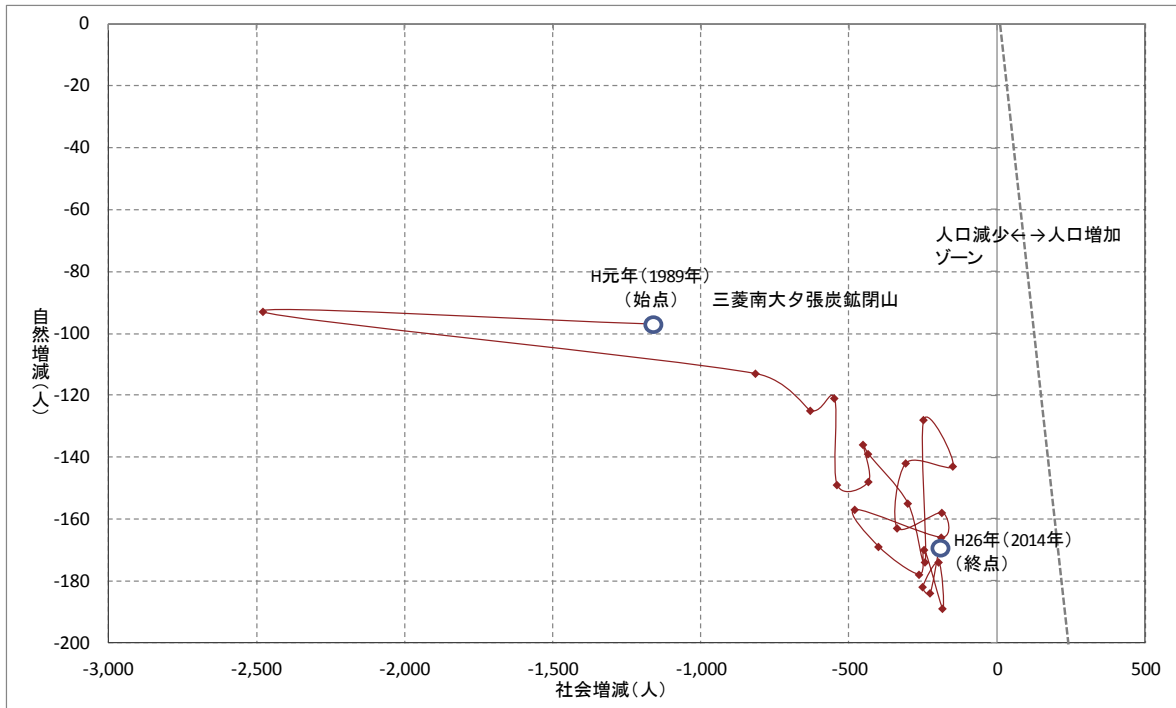
（平成元年度～平成24年度は4月1日～翌年3月31日の人口動態、平成25年以降は1月1日～12月31日の人口動態） ※調査基準日の変更により、平成25年1月1日～3月31日の出生者数と死亡者数は重複して集計。



### (6) 総人口の推移に与えてきた自然増減と社会増減の影響

- 夕張市の人口を自然増減と社会増減で見ると、炭鉱閉山による社会減少が人口減少に大きく影響したが、その後社会減少は緩やかに縮小している。
- 一方、自然減少については、全体的に減少数が増えており、直近5年間は社会減少及び自然減少の差は縮まってきている。

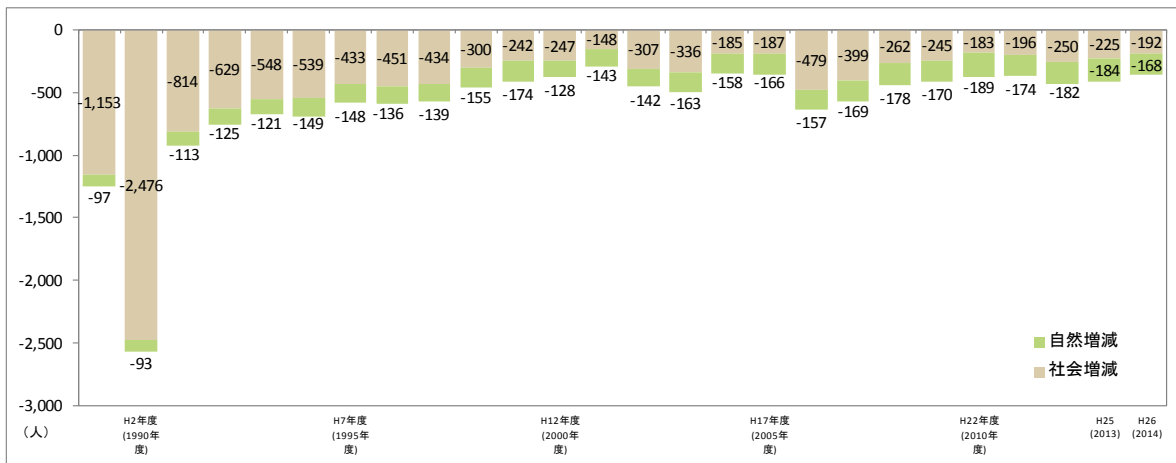
【図表】 総人口に与えてきた自然増減と社会増減の影響



資料: 総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」

(平成元年度～平成24年度は4月1日～翌年3月31日の人口動態、平成25年以降は1月1日～12月31日の人口動態) ※調査基準日の変更により、平成25年1月1日～3月31日の出生者数と死亡者数は重複して集計。

【図表】 自然増減・社会増減別の人口増減の推移



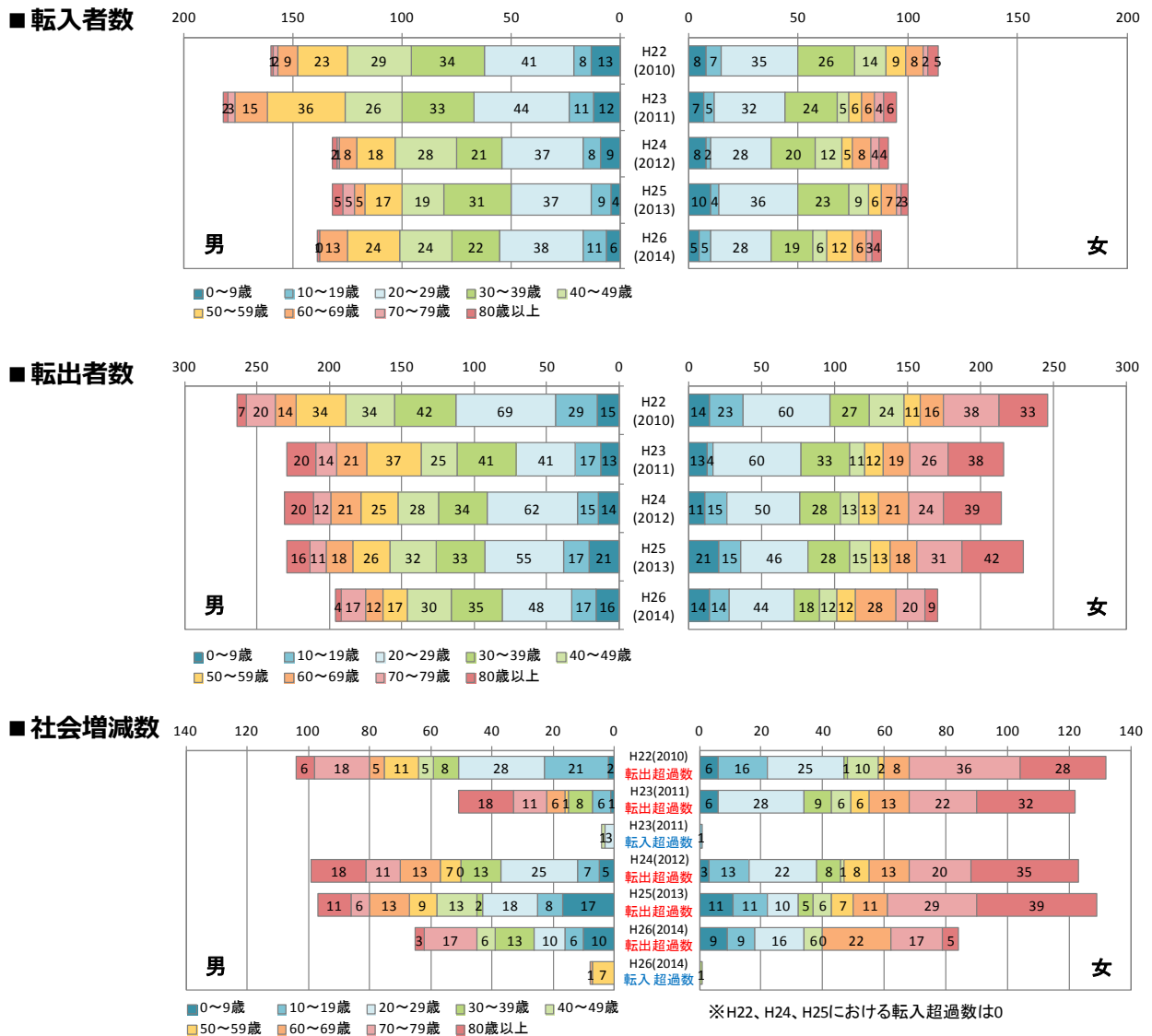
資料: 総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」

(平成元年度～平成24年度は4月1日～翌年3月31日の人口動態、平成25年以降は1月1日～12月31日の人口動態) ※調査基準日の変更により、平成25年1月1日～3月31日の出生者数と死亡者数は重複して集計。

### (7) 年代別の人口移動の状況

- 転入者数は、女性より男性の方が多く、特に男性の20～40代の転入者数が多い。一方で、男女ともに60代以上の転入者数は少ない。
- 転出者数は、女性より男性の方がやや多い。
- 社会増減数をみると、10～20代は、5年平均で約55人転出超過、60代以上は、5年平均で約100人の転出超過となっており、10～20代の若者のみならず、60歳以上の高齢者が3～5割を占めている。

【図表】年代別の転入者数・転出者数・社会増減の状況

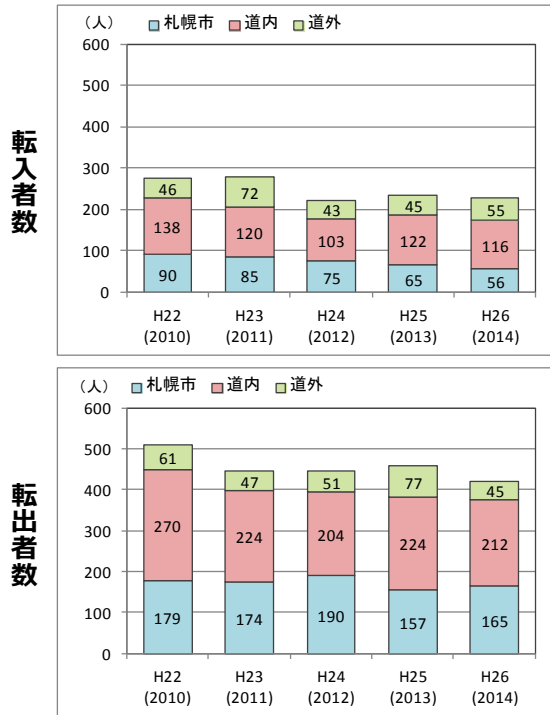


資料:夕張市データ(住民基本台帳(各年4月1日))

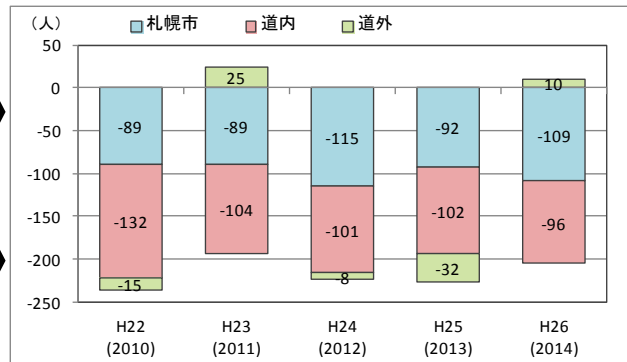
(8) 地域ブロック別の人口移動の状況

- 直近5年間の社会増減数を地域別にみると、札幌市と道内が約半数程度となっている。また、一部の年度で道外から転入超過となっている。
- 転出先としては、札幌市だけでなく、地理的な条件等が近いはずである近隣市町村への転出が多くなっている。

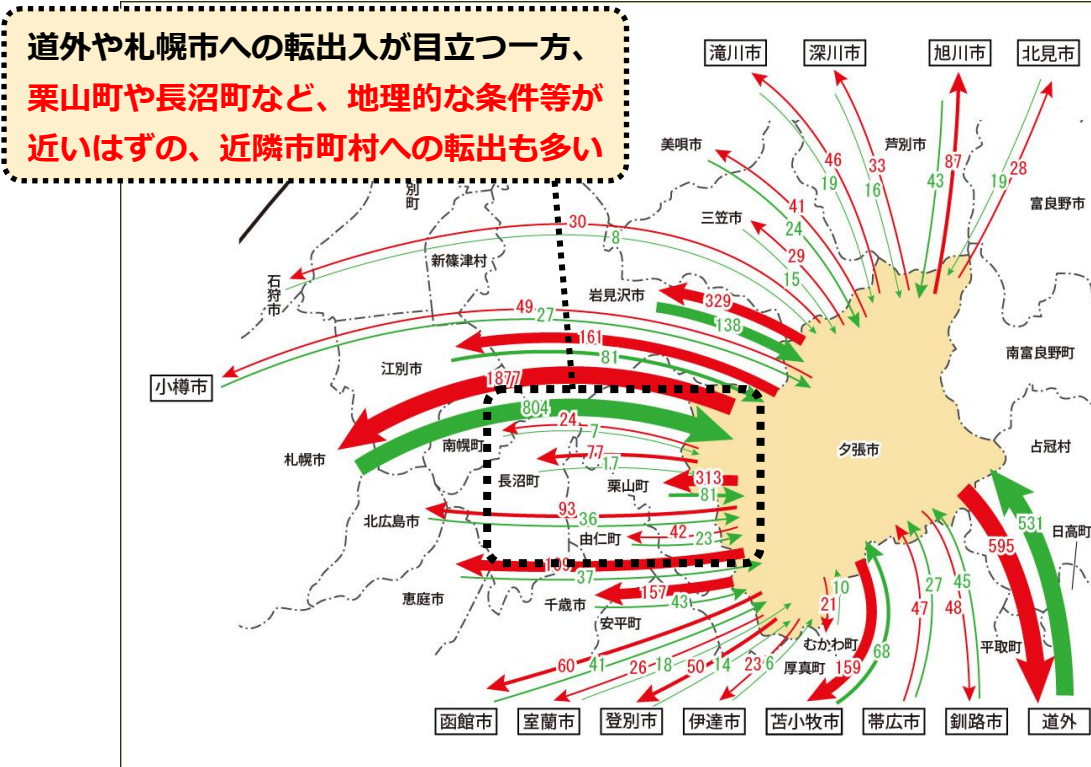
【図表】 地域別の社会増減の状況



社会増減数



【図表】 周辺地域との人口移動の状況 (平成 17 年～平成 26 年)

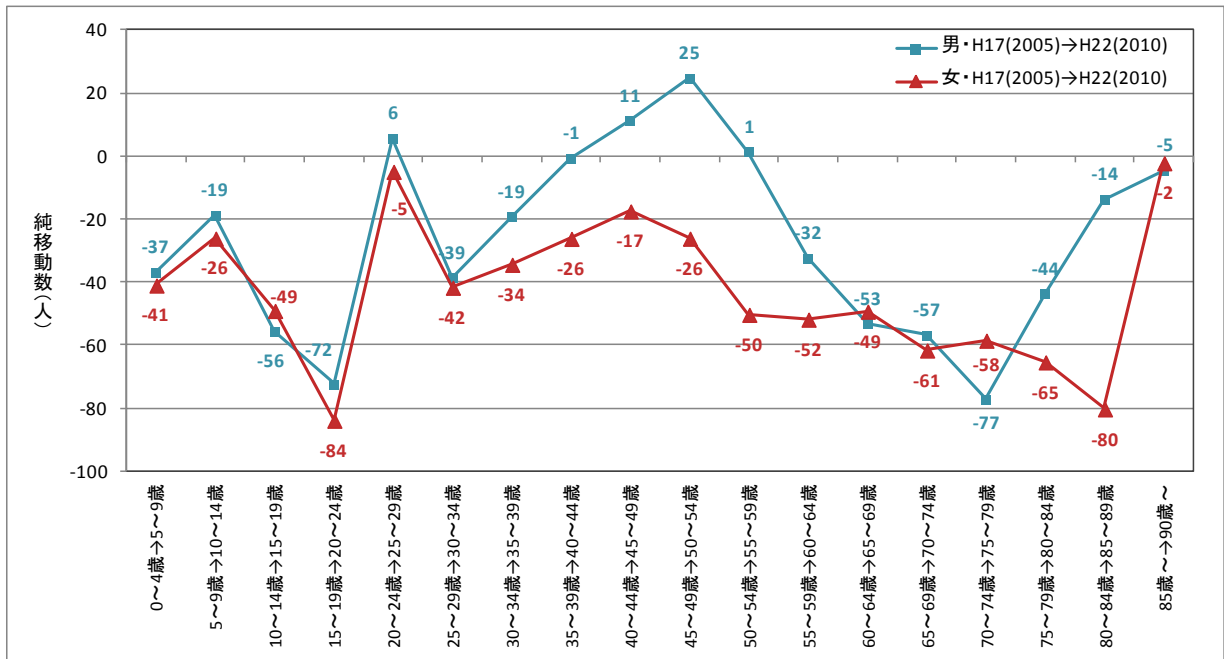


資料: 夕張市データ(住民基本台帳)

### (9) 性別・年齢別の人口移動の状況

- 平成 22 年（2010 年）の年齢別人口について、5 年前（平成 17 年）の人口から純移動数を推定すると、男女ともに 15～19 歳→20～24 歳の転出超過数が大きく、中学卒業や高校卒業を機に市外へ転出している人が多いと考えられる。
- さらに、女性の移動数が全ての年代で転出超過となっており、高齢になると転出超過数が大きくなっている。女性の高齢者の中では特に 80～84 歳→85～89 歳の転出が突出している。
- 男性は 40～44 歳→45～49 歳の年代から 50～54 歳→55～59 歳の年代で転入超過となっているが、そこから上の年代で転出超過数が大きくなり、男性の中では 70～74 歳→75～79 歳の転出超過数が最も大きくなっている。

【図表】男女別・年齢階級別の人口移動の状況（H17 年（2005 年）→H22 年（2010 年））



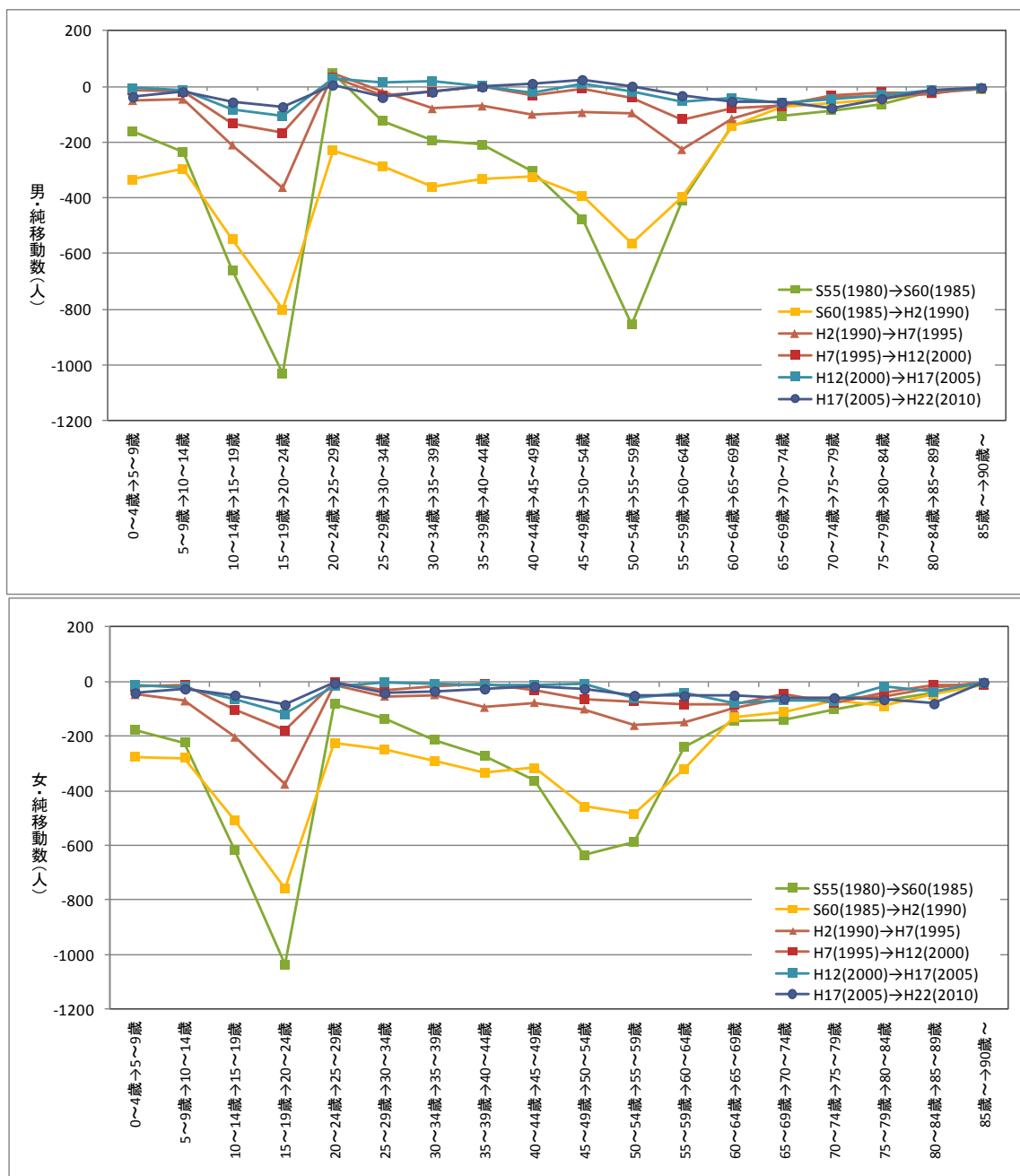
資料: 総務省「国勢調査」(まち・ひと・しごと創生本部提供データ)

※年齢不詳人口は年齢別人口の規模に応じて比例按分している。

※男女 5 歳階級別の純移動数は、上記「国勢調査」人口と各期間の生残率を用いて推定した値。生残率は厚生労働省大臣官房統計情報部「都道府県別生命表」より求めている。

- 長期的な人口移動の状況は、炭鉱の閉山が影響し、S55(1980)→S60(1985)、S60(1985)→H2(1990)の移動が男女ともに大きく、特に45～49歳→50～55歳から55～59歳→60～64歳の年代とその子供にあたる年代(10～14歳→15～19歳、15～19歳→20～24歳)の純移動数が大きかった。炭鉱の閉山以降、これらの年代を中心に純移動数は大きく縮小した。
- 一方、60～64歳→65～69歳の年代以降の高齢者については、他の年代に比べると、純移動数は大きな変化をしていない。

【図表】男女別・年齢階級別の人口移動の状況(長期動向)



資料: 総務省「国勢調査」(まち・ひと・しごと創生本部提供データ)

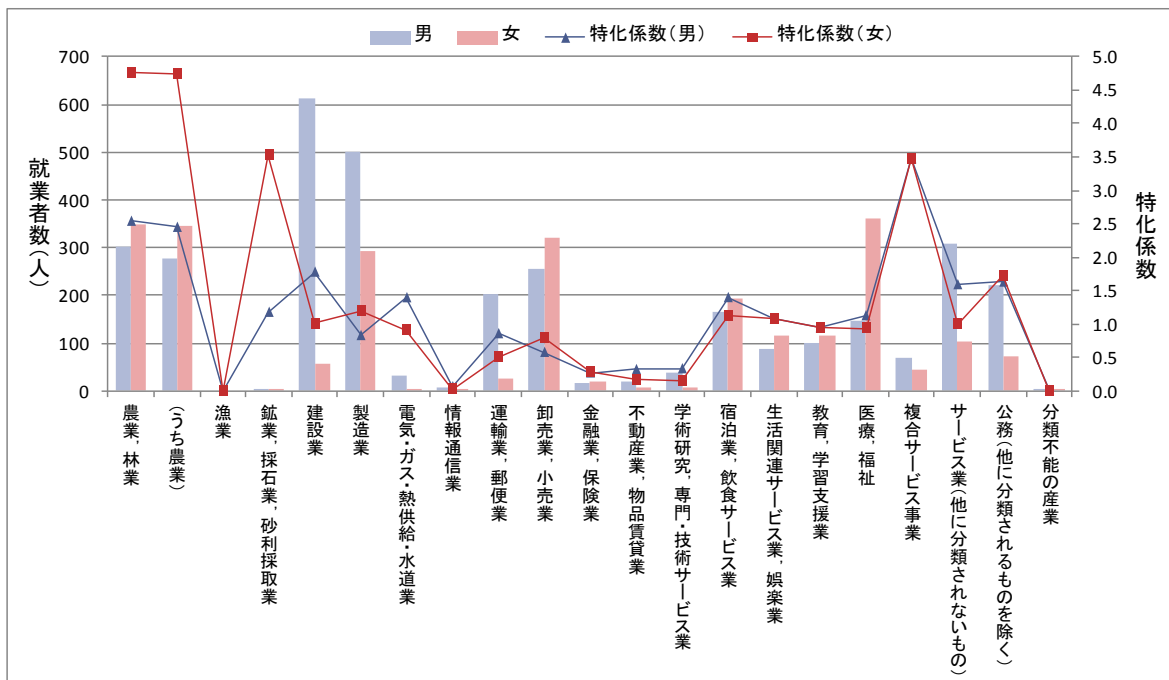
※年齢不詳人口は年齢別人口の規模に応じて比例按分している。

※男女5歳階級別の純移動数は、上記「国勢調査」人口と各期間の生残率を用いて推定した値。生残率は厚生労働省大臣官房統計情報部「都道府県別生命表」より求めている。

## (10) 雇用や就労等に関する分析

- 夕張市で働く産業別・男女別就業者数をみると、男性は「建設業」「製造業」の就業者数が多く、女性は「医療・福祉」「農業」「卸売業、小売業」が多くなっている。
- 就業者数（男女合計）が100人以上の産業のうち、特化係数<sup>1</sup>が高い産業は、男女ともに「農業」と「複合サービス事業」である。その他に、男性は「建設業」「サービス業（他に分類されないもの）」「公務」「宿泊業、飲食サービス業」等、女性は「公務」等の産業が挙げられる。
- 特化係数の高い農業においては、就業者の高齢化が進行しており、今後の高齢化が進むことによって担い手が不足し、生産力や競争力の低下等を招く恐れがある。
- また、市外から通勤して夕張で働く就業者は800人以上と、夕張で働く就業者数全体の約17%を占めており、先述した近隣市町村への転出と深く関係していることが推察される。

【図表】夕張市で働く産業別・男女別就業者数と特化係数



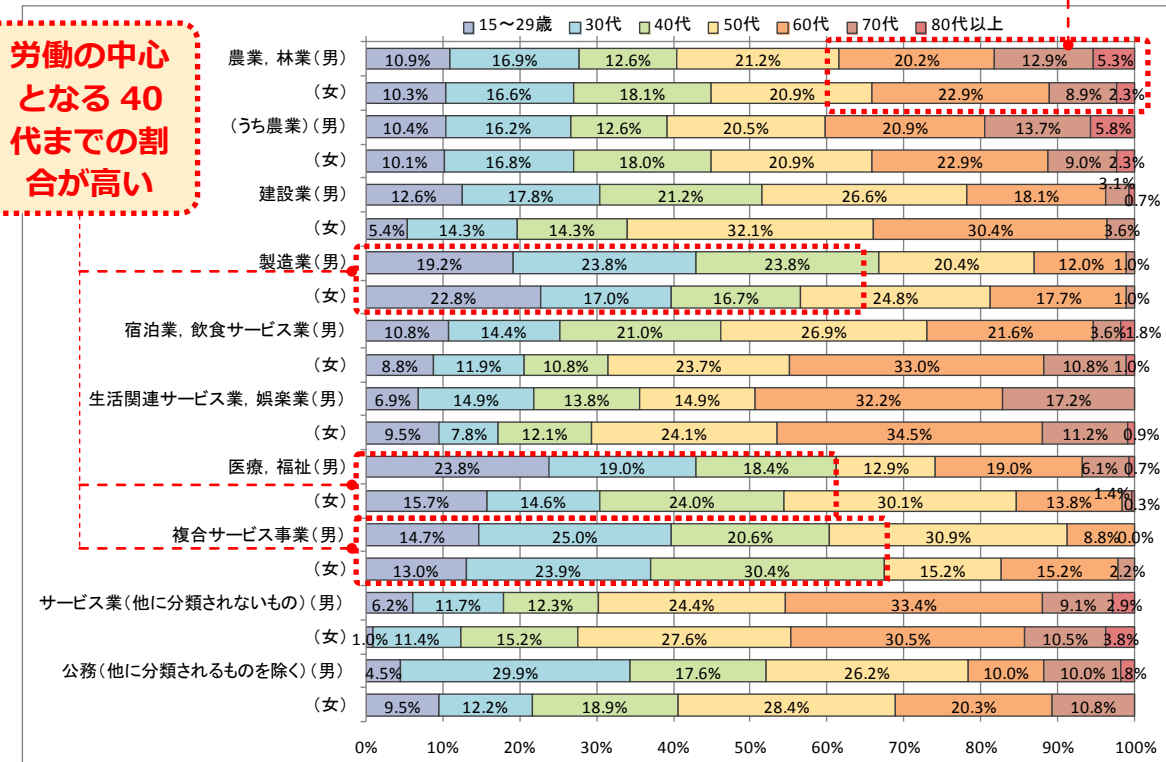
※「複合サービス事業」は、信用事業、保険事業又は共済事業と併せて複数の大分類にわたる各種のサービスを提供する事業所であって、法的に事業の種類や範囲が決められている郵便局、農業協同組合等が分類される。

資料：総務省「平成22年国勢調査」

<sup>1</sup> ある分野の産業について、自治体内に占める割合が、国全体に占める割合と比べて、どれだけ特化しているかを示す指標。この場合は【特化係数】=【夕張市の就業者比率】÷【全国の就業者比率】で表され、1であれば全国と同様、1より大きければ比較的優位にあるとされる。

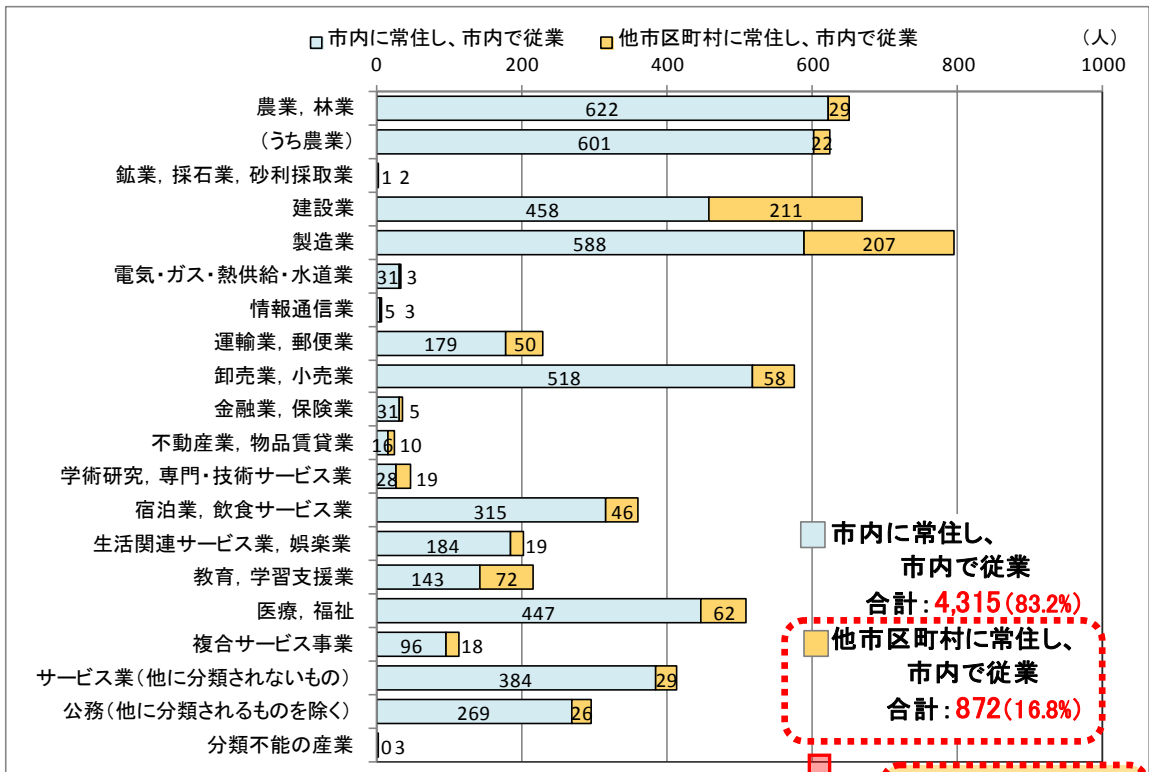
【図表】夕張市で働く産業別・男女別・年齢別就業者数の割合

高齢化の進行



資料:総務省「平成22年国勢調査」

【図表】夕張市で働く産業別就業者数

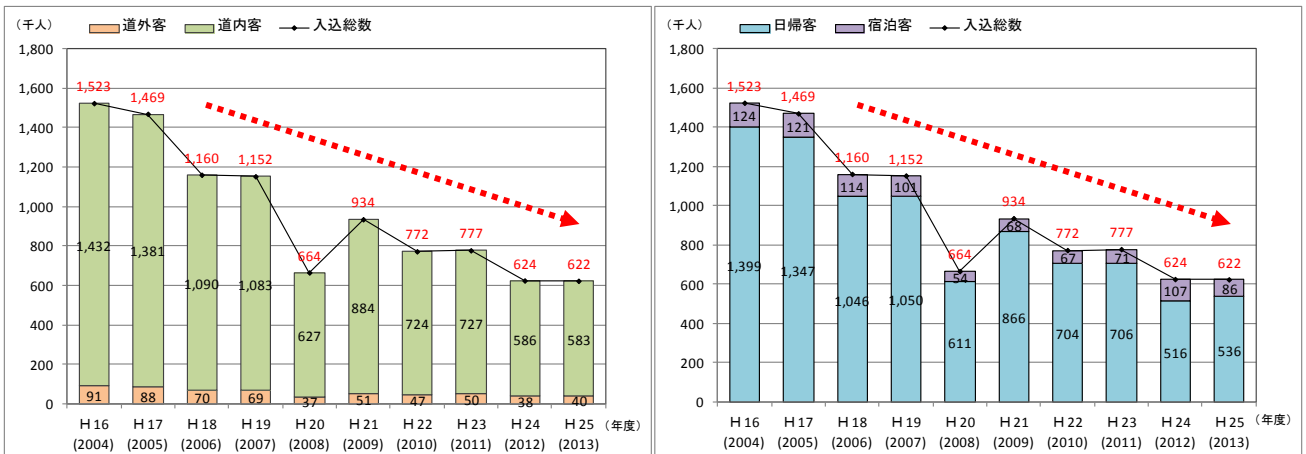


資料:総務省「平成22年国勢調査」

### (11) 観光に関する分析

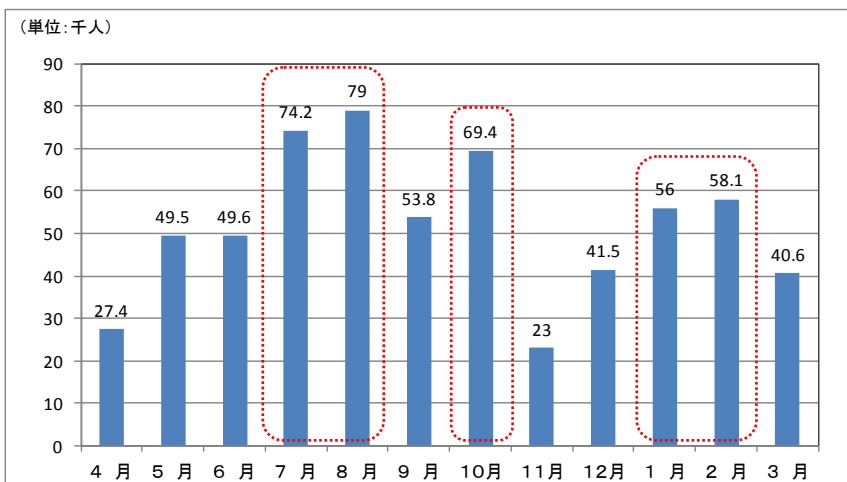
- 観光入込客数は低下傾向にあり、ほとんどが道内客で日帰客となっている。
- 観光のピークは7～8月の夏期で、その他10月の紅葉シーズンと1,2月の冬季についても観光客は多くなっている。

【図表】夕張市の観光入込客数の推移（左：道内外客別 右：日帰・宿泊客別）



資料：北海道「北海道観光入込客数調査」

【図表】夕張市の月別の観光入込客数（H25年度（2013年度））



資料：北海道「平成25年度北海道観光入込客数調査」



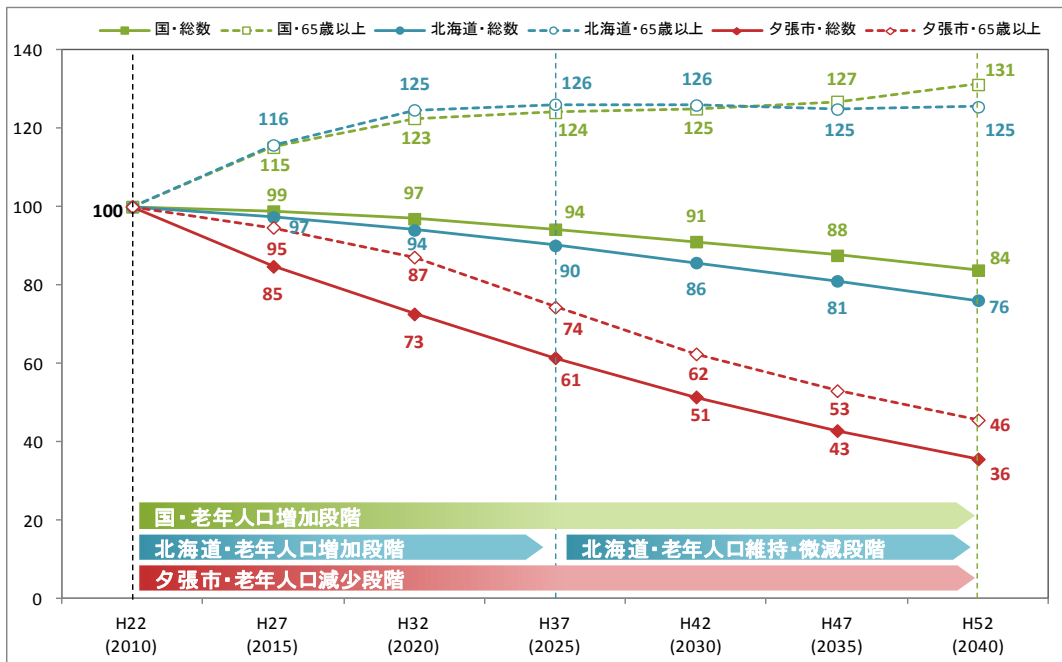
## 1-2 将来人口推計

### (1) 将来人口推計

#### ①人口減少段階の分析

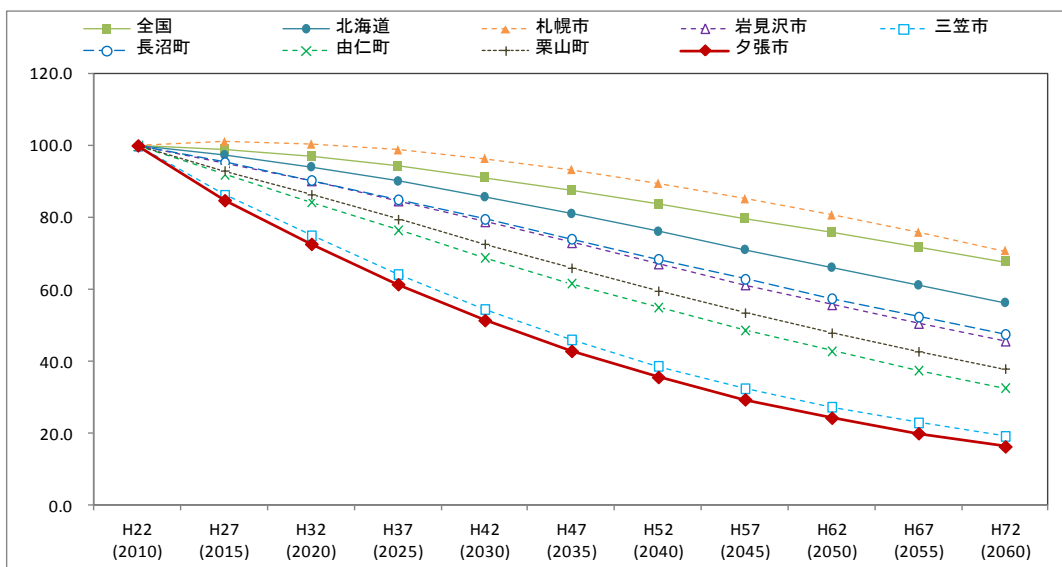
- 65 歳以上の老年人口に着目し、夕張市の人口減少段階をみると、すでに老年人口が減少する段階に入っており、平成 22 年（2010 年）の人口を 100 とすると、平成 42 年（2030 年）で 62、平成 52 年（2040 年）で 46 になると推計されている。国や北海道、周辺市町村と人口減少度合いを比較しても、より急激なものであることがわかる。

【図表】人口減少段階の分析



資料: 国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成 24 年 1 月推計)」 「日本の地域別将来人口推計(平成 25 年 3 月推計)」

【図表】周辺市町村との総人口の比較（社人研推計準拠）



資料: まち・ひと・しごと創生本部提供ワークシートより算出して作成

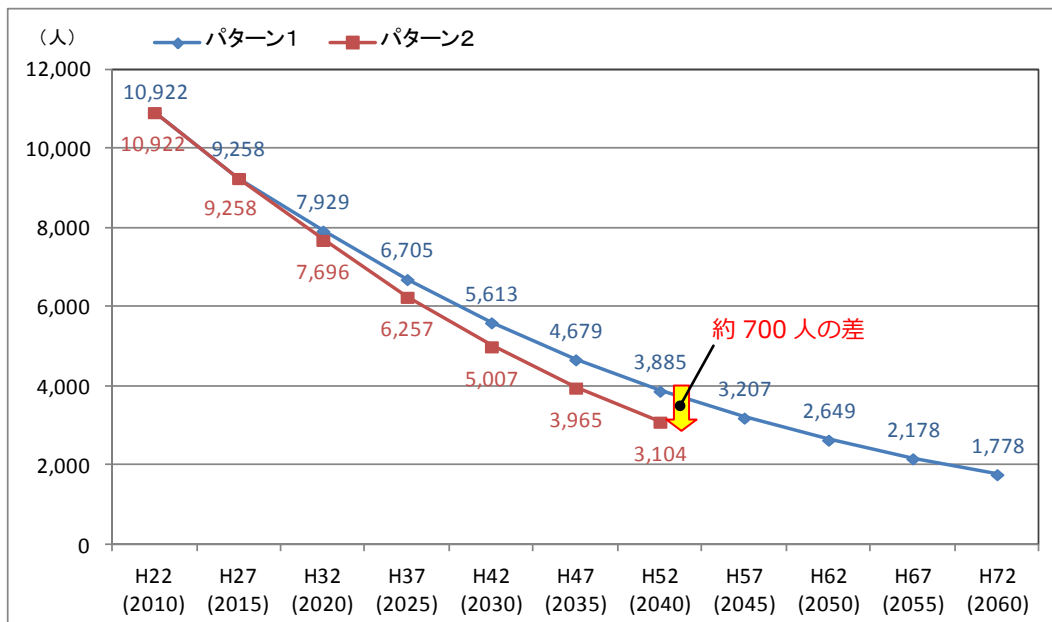
## ②社人研推計準拠と日本創成会議推計準拠との総人口の比較

- 平成 52 年（2040 年）の将来人口は、社人研推計準拠（パターン 1）が 3,885 人、人口移動が縮小しない日本創成会議推計準拠（パターン 2）では、3,104 人にまで減少し、約 700 人の差が生じる推計となっている。

【図表】パターン 1・パターン 2 の人口推計の考え方

	社人研推計準拠（パターン 1）	日本創成会議推計準拠（パターン 2）
移動	・直近期間の純移動率が、平成 27～32 年までに定率で 0.5 倍に縮小し、その後はその値を平成 47～52 年まで一定と仮定。	・社人研の平成 22～27 年の推計値から縮小せずに、平成 47～52 年まで概ね同水準で推移すると仮定。 ・社人研推計に比べて純移動率（の絶対値）が大きな値となる。
出生	・子ども女性比と 0～4 歳性比に基づき出生率を推計。（平成 52 年に約 1.12 と僅かに減少）	パターン①と同じ
死亡	・厚生労働省「都道府県別生命表」「市町村別生命表」を基に男女・年齢階級別に設定。	パターン①と同じ

【図表】パターン 1・パターン 2 の総人口の比較



資料: まち・ひと・しごと創生本部提供ワークシートより算出して作成

## (2) 将来人口の及ぼす自然増減・社会増減の影響度の分析

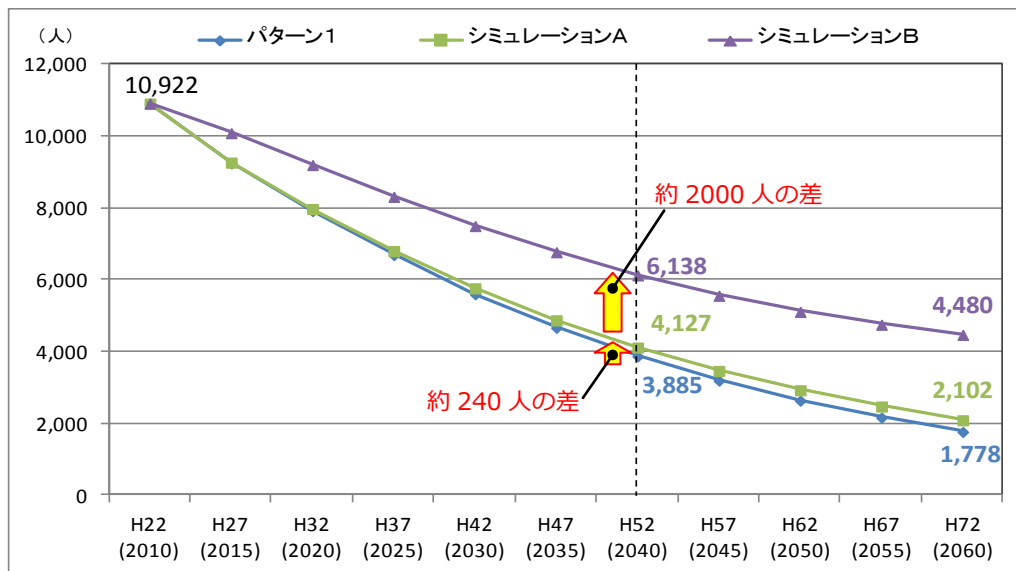
### ① 自然増減、社会増減の影響度の分析

- まち・ひと・しごと創生本部の分析によると、夕張市は自然増減の影響度よりも社会増減の影響度が大きいことが示されている。すなわち、自然減少による人口減よりも、社会減少による人口減のほうが、より深刻な状況にあるということであり、社会減少を抑制する施策が非常に重要であることを示している。

【図表】人口推計シミュレーションの考え方

	シミュレーションA： パターン1 + 出生率上昇	シミュレーションB： パターン1 + 出生率上昇 + 移動ゼロ
移動	・パターン1と同じ	・移動(純移動率)がゼロ(均衡)で推移すると仮定
出生	・合計特殊出生率が H42(2030年)までに人口置換水準(2.1)まで上昇すると仮定	・合計特殊出生率が H42(2030年)までに人口置換水準(2.1)まで上昇すると仮定
死亡	・パターン1と同じ	・パターン1と同じ

【図表】シミュレーションAとシミュレーションBの推計の考え方



資料: まち・ひと・しごと創生本部提供ワークシートより算出して作成

【図表】自然増減、社会増減の影響度

分類	計算方法	影響度
自然増減の影響度	シミュレーションAの 2040年推計人口=4,127人 パターン1の 2040年推計人口=3,885人 → 4,127(人) / 3,885(人) = <b>106.2%</b>	<b>3</b> 1=100%未満、2=100~105%、 3=105~110%、4=110~115%、 5=115%以上
社会増減の影響度	シミュレーションBの 2040年推計人口=6,138人 シミュレーションAの 2040年推計人口=4,127人 → 6,138(人) / 4,127(人) = <b>148.7%</b>	<b>5</b> 1=100%未満、2=100~110%、 3=110~120%、4=120~130%、 5=130%以上

【図表】道内市町村の自然増減・社会増減の影響度

		自然増減の影響度					総計
		1	2	3	4	5	
社会増減の影響度	1	0	3 音更町,芽室町,更別村	8 千歳市,恵庭市,七飯町,鹿部町,二セコ町,東神楽町,東川町,幕別町	7 北区,東区,白石区,西区,厚別区,手稲区,清田区	3 中央区,豊平区,仁木町	21 11.2%
	2	0	8 留寿都村,赤井川村,月形町,鷹栖町,安平町,清水町,鶴居村,中標津町	18 旭川市,室蘭市,帯広市,北見市,網走市,苫小牧市,名寄市,砂川市,富良野市,登別市,伊達市,石狩市,北斗市,今金町,長沼町,斜里町,西興部村,中札内村	3 南区,岩見沢市,北広島市	1 江別市	30 16.0%
	3	2 京極町,泊村	15 知内町,黒松内町,俱知安町,神恵内村,中富良野町,下川町,猿払村,小清水町,大空町,厚真町,士幌町,上士幌町,鹿追町,大樹町,広尾町	27 釧路市,稚内市,滝川市,新篠津村,森町,八雲町,寿都町,余市町,栗山町,新十津川町,秩父別町,北竜町,当麻町,比布町,美瑛町,剣淵町,美深町,枝幸町,美幌町,佐呂間町,遠軽町,湧別町,興部町,白老町,新冠町,新得町,池田町	7 函館市,小樽市,長万部町,雨竜町,占冠村,増毛町,豊浦町	0	51 27.1%
	4	1 えりも町	17 厚沢部町,乙部町,島牧村,真狩村,喜茂別町,共和町,上富良野町,和寒町,羽幌町,初山別村,訓子府町,日高町,本別町,足寄町,標茶町,弟子屈町,別海町	28 紋別市,士別市,根室市,深川市,蘭越町,岩内町,積丹町,奈井江町,由仁町,浦臼町,沼田町,愛別町,上川町,南富良野町,小平町,浜頓別町,幌延町,津別町,置戸町,滝上町,壮瞥町,洞爺湖町,むかわ町,新ひだか町,釧路町,厚岸町,浜中町,標津町	3 美瑛市,古平町,雄武町	1 当別町	50 26.6%
	5	1 利尻富士町	14 奥尻町,妹背牛町,中川町,幌加内町,遠別町,天塩町,中頓別町,豊富町,礼文町,利尻町,清里町,平取町,陸別町,浦幌町	17 <b>夕張市</b> 留萌市,芦別市,三笠市,歌志内市,松前町,木古内町,江差町,上ノ国町,せたな町,上砂川町,苫前町,浦河町,様似町,豊頃町,白糠町,羅臼町	3 赤平市,福島町,南幌町	1 音威子府村	36 19.1%
	総計	4 2.1%	57 30.3%	98 52.1%	23 12.2%	6 3.2%	188 100.0%

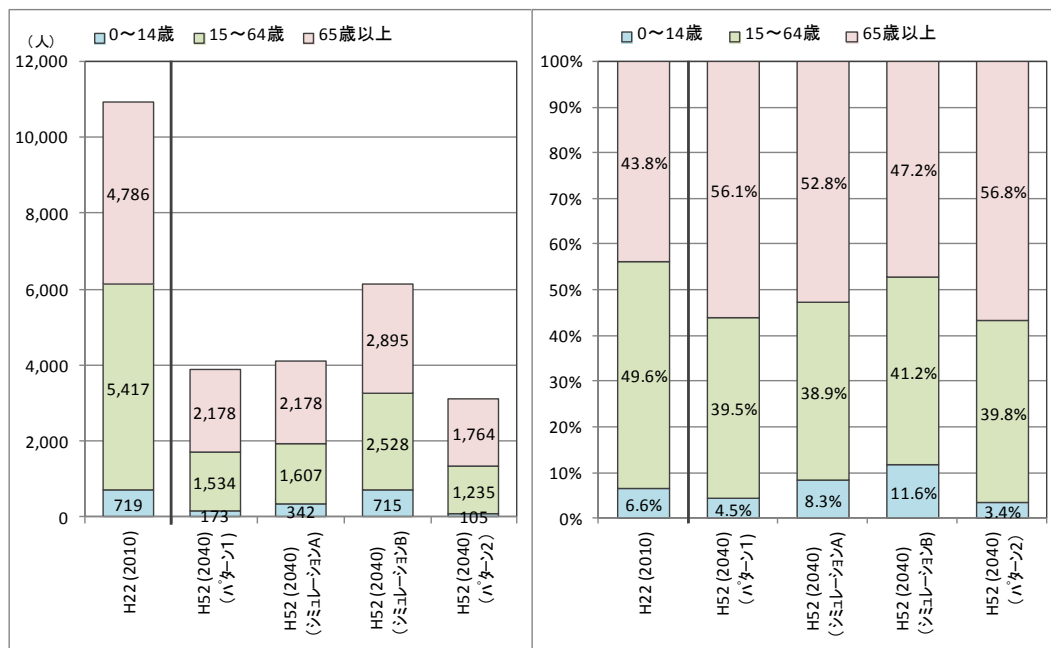
資料：内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局『『地方人口ビジョン』及び『地方版総合戦略』の策定に向けた人口動向分析・将来人口推計について』から作成

## ②人口構造の分析・高齢化率の変化

- パターン1、パターン2、シミュレーションA、シミュレーションBの推計人口について年齢3区別にみると、「0～14歳」の人口減少率は、パターン1は約-76%、パターン2は約-85%であるが、出生率が上昇したシミュレーションAでは約-53%、さらに移動がゼロとなるシミュレーションBでは-0.6%と、大きく減少率が縮小する。
- また、20～30歳女性でみると、パターン1が約-72%、パターン2が約-85%、シミュレーションAは約-70%であるが、シミュレーションBでは約-36%にまで減少率が抑えられることがわかる。
- 一方、「65歳以上」については、パターン1が約-55%、パターン2が約-63%となり、シミュレーションAでは約-55%と、出生率が上昇しても大きな差は見られない。一方、シミュレーションBでは約-40%となり、移動ゼロとなることで減少率は縮小することがわかる。

【図表】人口構造の変化

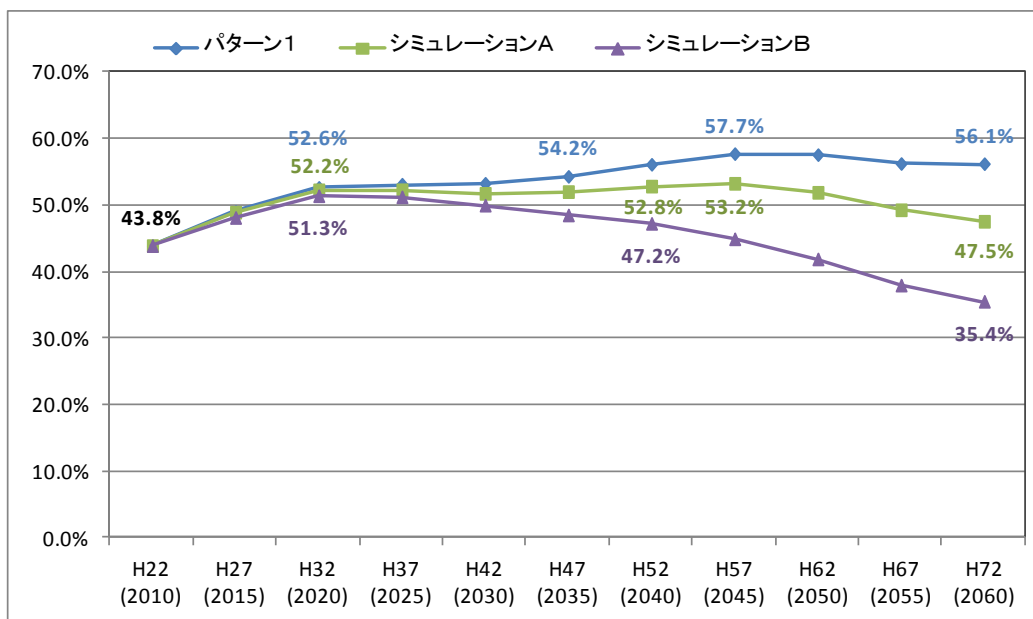
		総人口	0～14歳	15～64歳	65歳以上	20～39歳女性
H22年 (2010年)	現状	10,922	719	5,417	4,786	653
H52年 (2040年)	パターン1	3,885	173	1,534	2,178	180
	シミュレーションA	4,127	342	1,607	2,178	196
	シミュレーションB	6,138	715	2,528	2,895	416
	パターン2	3,104	105	1,235	1,764	100
		総人口	0～14歳	15～64歳	65歳以上	20～39歳女性
H22年 (2010年)	パターン1	-64.4%	-75.9%	-71.7%	-54.5%	-72.4%
→H52年 (2040年)	シミュレーションA	-62.2%	-52.5%	-70.3%	-54.5%	-70.0%
	シミュレーションB	-43.8%	-0.6%	-53.3%	-39.5%	-36.3%
	パターン2	-71.6%	-85.4%	-77.2%	-63.1%	-84.6%



資料: まち・ひと・しごと創生本部提供ワークシートより算出して作成

- パターン1とシミュレーションA、シミュレーションBについて、平成52年（2040年）の仮定を平成72年（2060年）まで延長して推計すると、高齢化率は、パターン1では平成57年（2045年）の57.7%まで上昇するが、その後横ばいで推移し、平成72年（2060年）で56.1%になると推計される。
- シミュレーションAでは、平成57年（2045年）の53.2%まで上昇し、平成62年（2050年）まで約52%で推移する。その後緩やかに減少し、平成72年（2060年）で47.5%になると推計される。
- また、シミュレーションBでは、平成32年（2020年）の51.3%まで上昇するが、その後緩やかに減少し、平成52年（2040年）で47.2%、平成72年（2060年）で35.4%と40%を割り、平成22年（2010年）よりも低くなると推計される。

【図表】 高齢化率の推移



資料: まち・ひと・しごと創生本部提供ワークシートより算出して作成

### 1-3 人口の変化が地域の将来に与える影響の分析

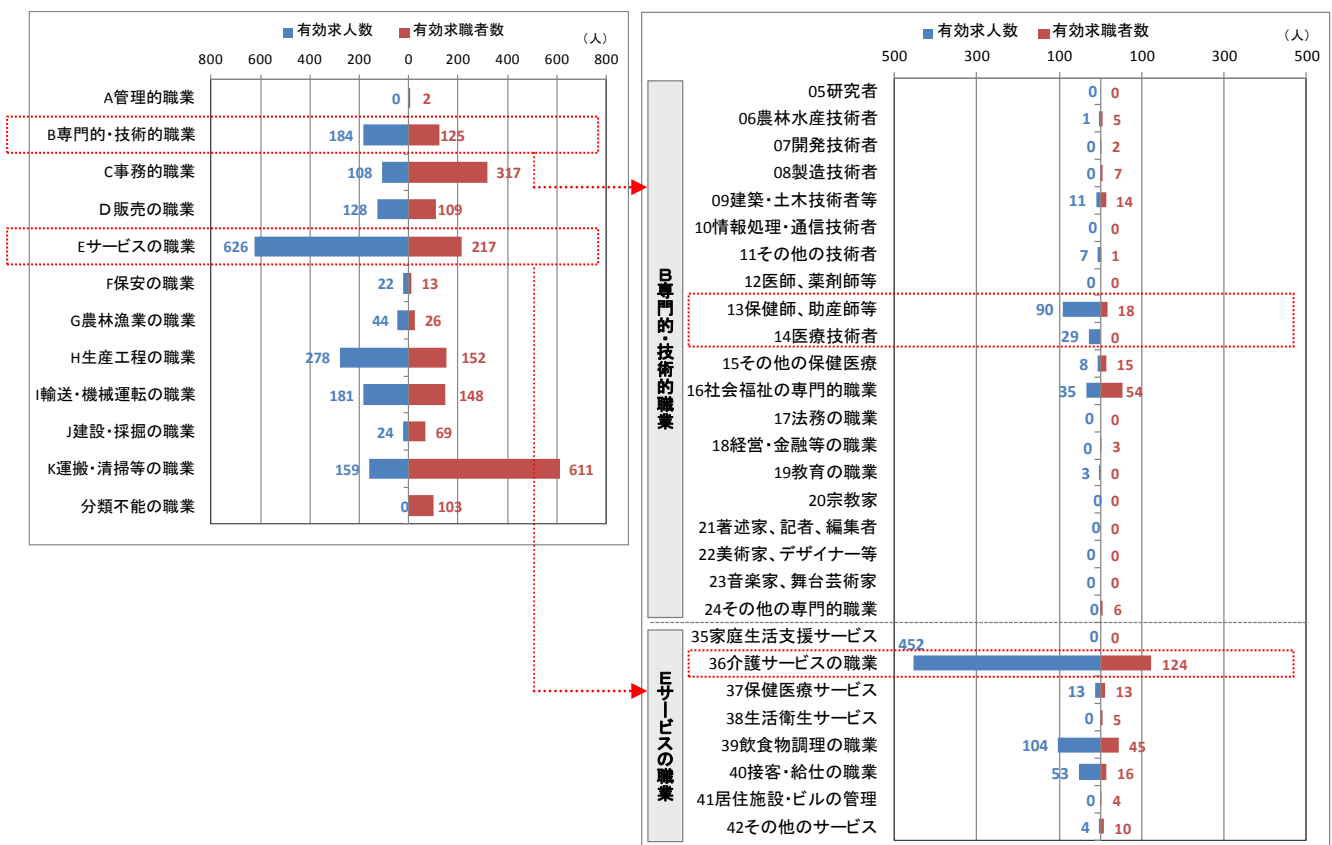
#### (1) 医療・福祉面への影響

- 厚生労働省<sup>2</sup>は「少子高齢化の進行等の下で生産年齢人口が減少し、労働力人口も減少が見込まれる」とし、「福祉分野においては離職率が高く、定着率が低いという特徴から、常態的に求人募集が行われ、一部の地域や事業所では人手不足が生じているとの指摘もあります。」としている。
- 夕張市の有効求人数・有効求職者数をみると、特に「介護サービスの職業」区分において、有効求職者数に対して有効求人数が圧倒的に多い現状にあるが、これは定着率が低いことから、事業者側が常に求人を出しているためと考えられる。
- また、「保健師、助産師等」「医療技術者」についても、有効求人数に対して圧倒的に有効求職者数が少ない状況にあるが、これは人口規模が少ない自治体に特有の課題といえる。
- 夕張市においては生産年齢人口が減少し続けている一方で、高齢化率は2040年で約56.1%まで上昇すると予測されており、医療・介護分野におけるサービスの円滑な供給に支障を来すことが懸念される。

【図表】有効求人数・有効求職者数

＜＜H26 有効求人数・有効求職者数（大分類）＞＞

＜＜H26 有効求人数・有効求職者数（中分類抜粋）＞＞



資料：千歳公共職業安定所夕張出張所「職業安定業務統計(住所別データ)」

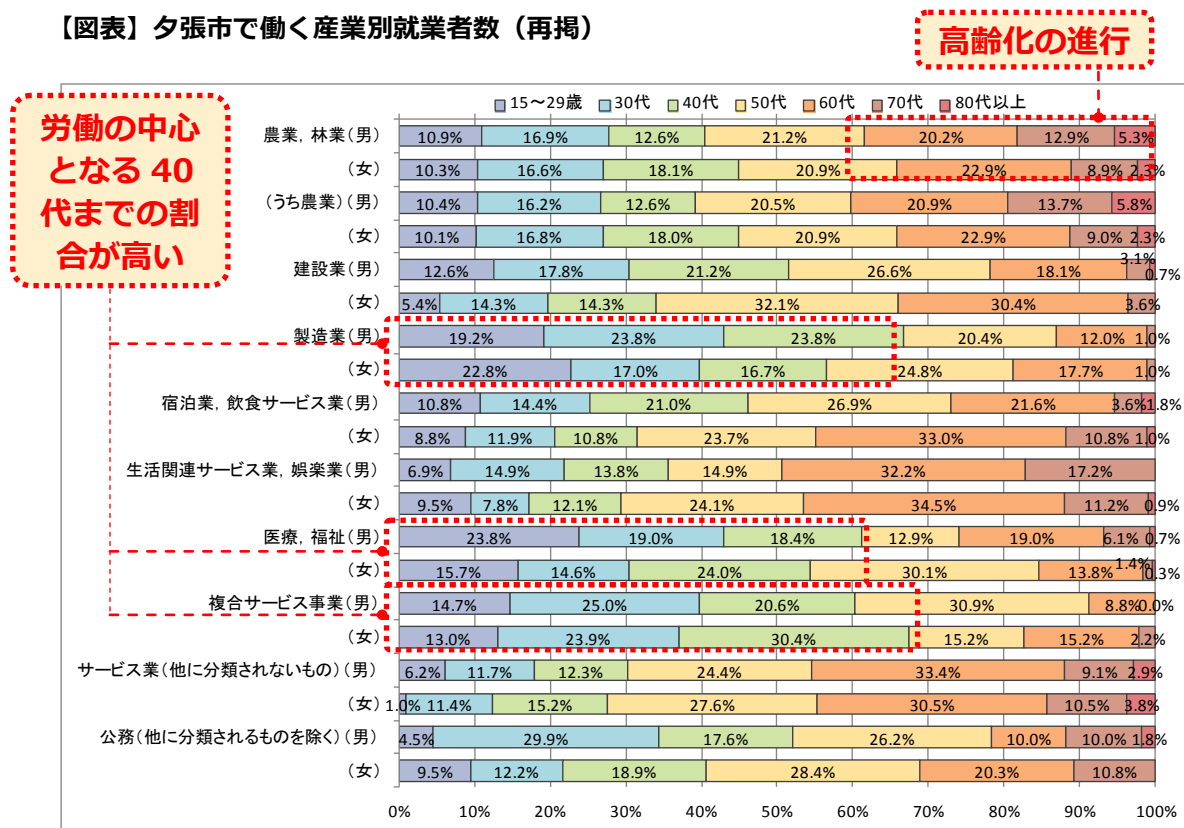
<sup>2</sup> 「福祉人材確保対策 | 厚生労働省」のページより引用。

([http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi\\_kaigo/seikatsuhogo/fukusijinjai/](http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/seikatsuhogo/fukusijinjai/))

## (2) 産業への影響

- 特化係数の指標を用いて分析すると、夕張市では農業が高い数値を示すが、就業者の高齢化が進行している。今後人口減少によって担い手が不足し、生産力・競争力の低下や廃業者の増加など、夕張の地域経済に大きな影響を与えることが想定されるため、技術継承も含めた後継者育成が必要である。
- 製造業、医療・福祉、複合サービス事業（組合等）では、40代までの若手で過半を占めているが、人口減少によりこれら労働の中心となる世代が減少し、労働力不足や企業の転出を招くことも想定される。

【図表】夕張市で働く産業別就業者数（再掲）

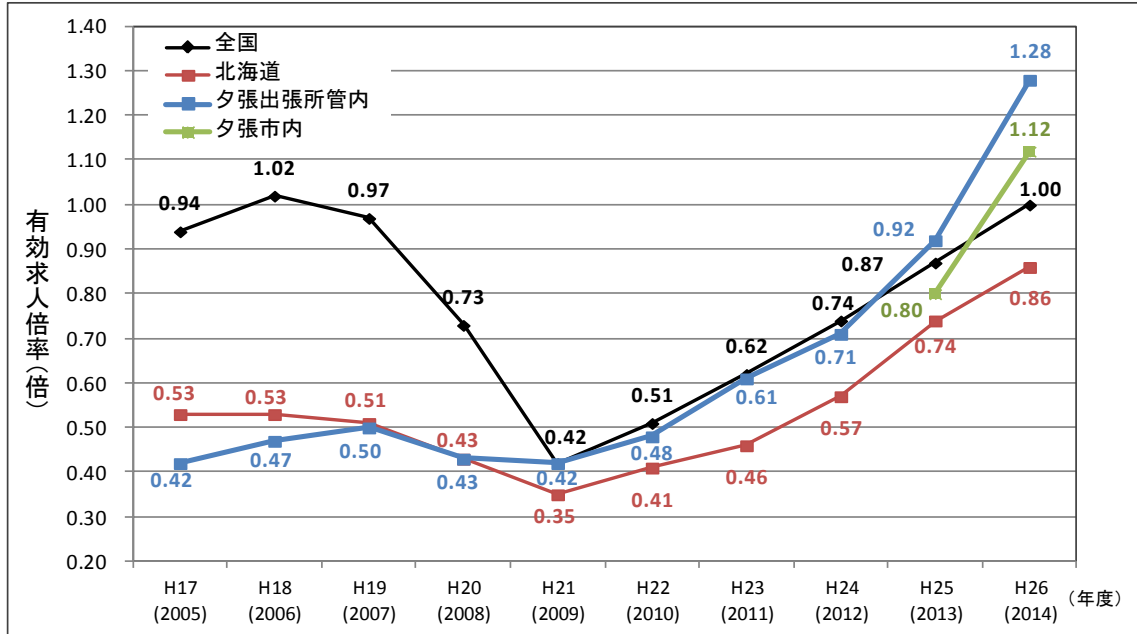


資料：総務省「平成22年国勢調査」



**【図表】有効求人倍率の推移**

※夕張市は千歳市公共職業安定所夕張出張所の管轄に含まれ、夕張出張所では、夕張市の他に由仁町、長沼町、栗山町も管轄している。



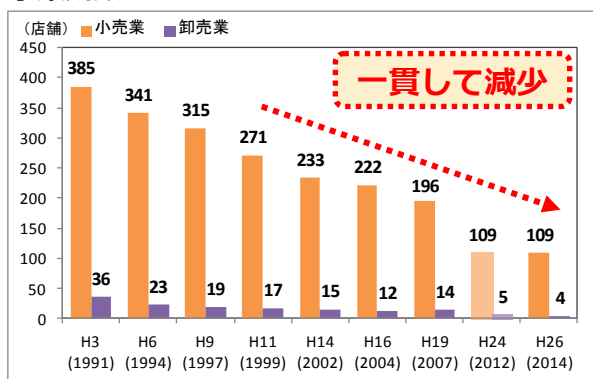
資料:北海道労働局「安定所別月間有効求人倍率(常用)の推移」  
千歳市公共職業安定所夕張出張所 資料

### (3) 生活利便施設への影響

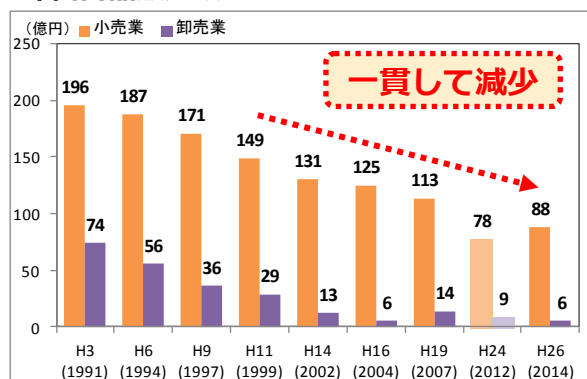
- 卸売業・小売業の事業所数・年間商品販売額は減少傾向にあり、今後さらなる人口減少が進むことによって商圈が縮小し、スーパー・コンビニ等の生活利便施設の撤退が増え、市民の生活利便性が低下することが想定される。卸売業・小売業は、建設業等と比べると1事業所あたりの従業者数は少ないものの、廃業による人口減少への影響は大きい。
- 人口減少によって、商業のみならず、郵便局等の金融機関や診療所等の医療施設の減少や地域コミュニティの維持が困難となることも想定される。

【図表】卸売業・小売業の事業所数・年間商品販売額の推移

#### 「事業所数」

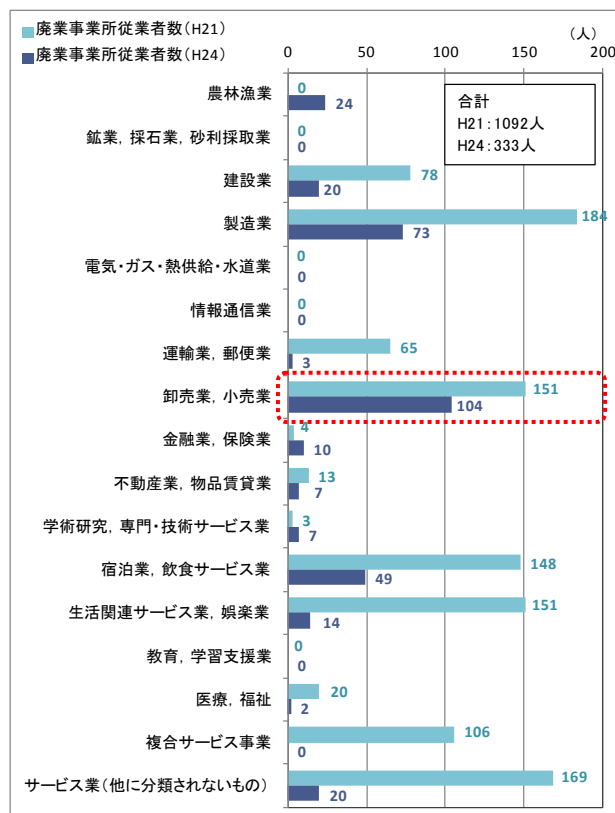
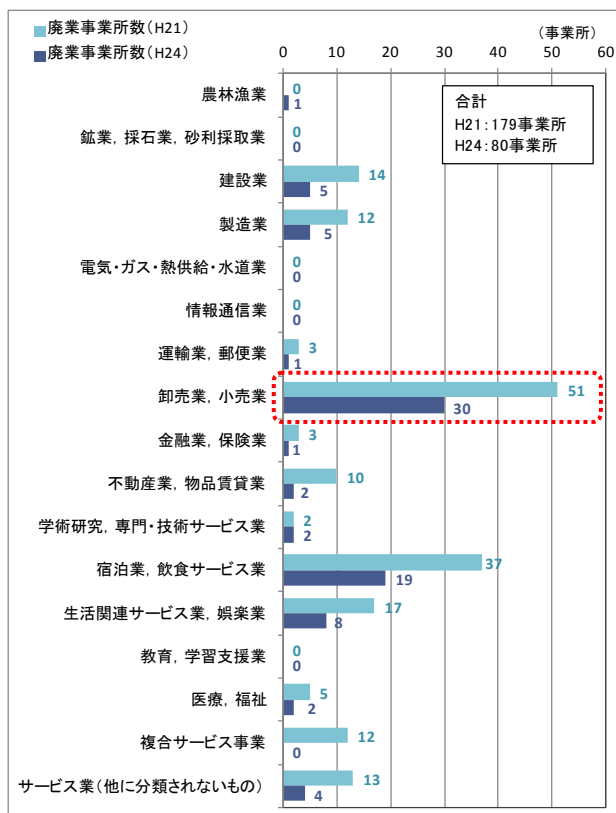


#### 「年間商品販売額」



資料：平成3年～19年、26年は総務省・経済産業省「商業統計調査」、平成24年は総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」 ※経済センサスは参考値

【図表】夕張市における廃業事業所数・従業者数

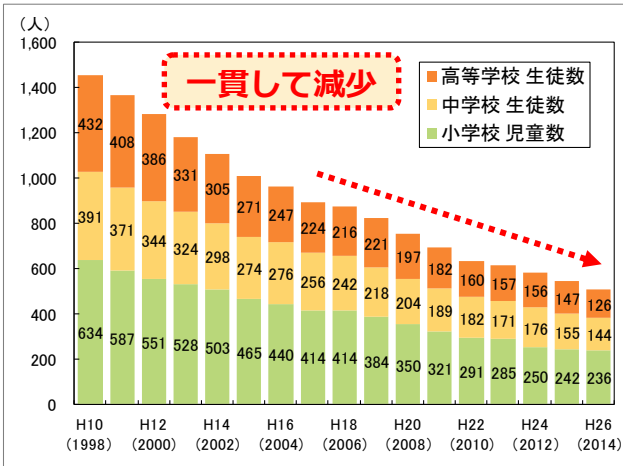


資料：総務省・経済産業省「平成21年経済センサス-基礎調査」「平成24年経済センサス-活動調査・存続・新設・廃業別集計編」

#### (4) 子どもの教育への影響

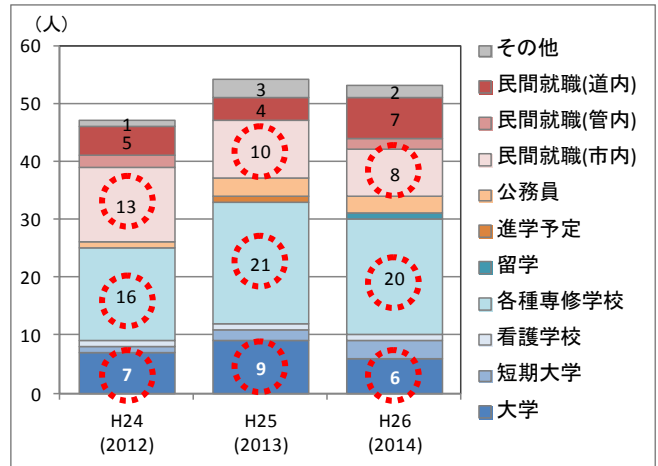
- 夕張で生まれる子どもの減少と比例して児童・生徒数が一貫して減少しており、更に中学校から高校への進学率が低下しているため、夕張高校の存続が懸念される。
- 加えて、夕張高校卒業生の多くが市外に進学または就職しており、市内での就職は微減傾向にある。

【図表】市内生徒数の推移



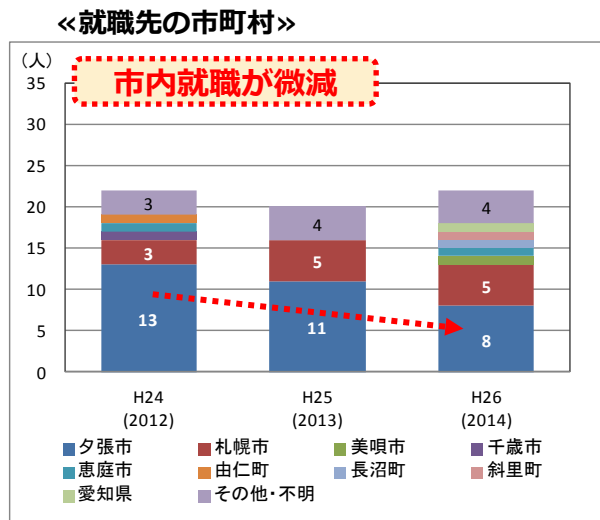
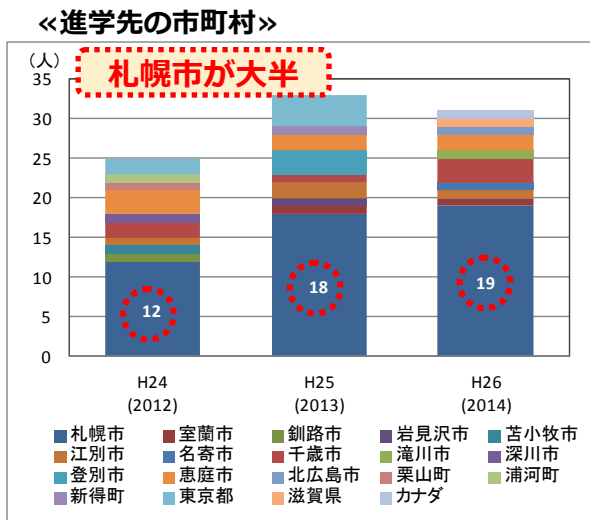
資料: 文部科学省「学校基本調査」

【図表】夕張高校卒業生の進学・就職先



資料: 夕張高校「卒業生の進路」(平成24年～平成26年)

【図表】夕張高校卒業生の進学・就職先の市町村

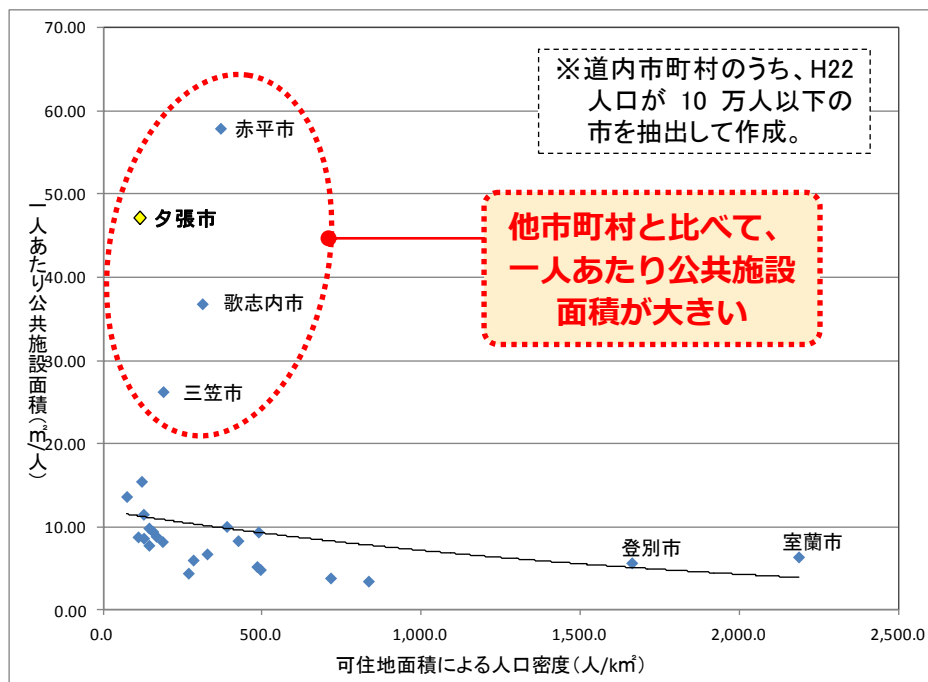
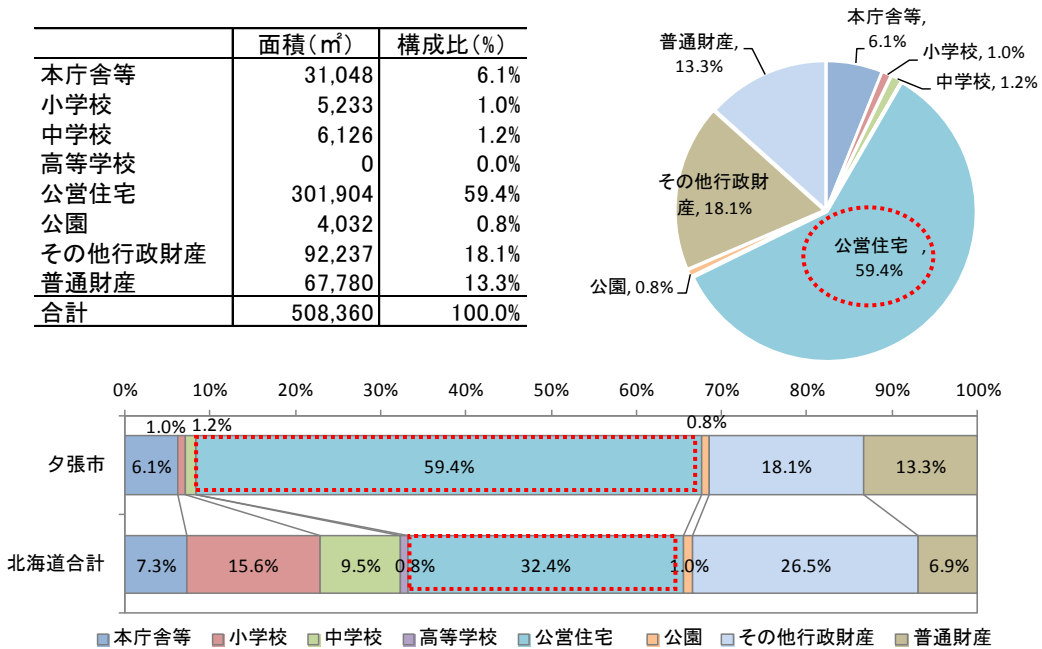


資料: 夕張高校「卒業生の進路」(平成24年～平成26年)

### (5) 公共施設の維持管理・更新等への影響

- 夕張市の公共施設の保有状況を見ると、公営住宅が全体の約6割を占め、北海道全体の割合(約3割)と比べると約2倍の割合となっている。
- 現状においても市民一人あたり公共施設面積が大きく、今後、人口減少の進行によって、さらに一人あたりの維持管理の負担が増加すると予測される。
- 市民一人あたり公共施設面積について、道内市町村のうち10万人以下の市町村と比較すると、夕張市をはじめとする旧産炭地域の都市は突出して大きく、今後、人口減少の進行によって、さらに市民一人あたりの維持管理の負担が増加すると予測される。公共施設の集約化等によるまちのコンパクト化により、市の維持管理負担を軽減することが求められる。

【図表】夕張市の公共施設の保有状況 (H25年度)



# 1-4 夕張のもつ資源・強み

## (1) 自然環境

### ■夕張岳



夕張岳

- ・芦別岳などを含めた一帯が、1955年(S30)に道立公園、1958年(S33)に道立自然公園に指定。
- ・1996年(H8)に「夕張岳の高山植物群落及び蛇紋岩メランジュ帯」として、史跡名勝天然記念物に指定。



ユウパニコザクラ

- ・標高1,668mの山で、日本でも有数の高山植物の宝庫であり、6月下旬から9月末のシーズンには、全国から登山者が訪れる。
- ・蛇紋岩という特殊な地質により、ユウパニコザクラ、ユウパリスウといった夕張岳の固有植物など、多様な高山植物がみられ、「花の名山」として知られる。
- ・ユウパニコザクラの会により、夕張岳ヒュッテの管理・運営ボランティア、登山道のパトロールが実施されている。

### ■シューパーダム (シューパー湖)



シューパーダム

- ・シューパーダムは、H27年4月から供用を開始し、湛水面積はダム湖としては日本で2番目。総貯水容量も第4位で、全国の中でも屈指の大貯水池。



夕張川での体験

- ・「ゆうぱり自然体験塾」では、夕張川でのラフティングや、石炭採掘・ズリ山登山、夕張メロンを使ったジャムやパン作りなど、夕張の自然や歴史などの魅力を体験できるツアー・プログラムを実施。

### ■滝の上公園



滝の上公園

- ・ボンソウカムイコタン(北方にある神が住んでいるところ、小さな滝のあるところ)と呼ばれ、「千鳥ヶ滝」や「竜仙峡」などの滝や奇岩、特に秋が魅力的な景観を形成。
- ・10月には、「夕張もみじ祭り」を開催。

## (2) 歴史資源

### ■石炭博物館



石炭博物館

- ・国内最大の炭鉱ミュージアム。石炭の誕生や使用方法、炭鉱時代の生活や仕事など、石炭と炭鉱の歴史を学べる体験型博物館。実際に使用されていた坑道を見学することができる国内唯一の施設でもある。



模擬坑道

- ・炭鉱住宅や友子制度など、炭鉱のまちで根付いた生活文化も学ぶことができる。

### ■ズリ山



『高松地区のズリ山』航空写真 S28年～S52年 2,200万㎡

- ・旧炭鉱で採炭され、選炭において不純物等を含むものをズリとして山間に堆積させたもの。
- ・炭鉱の閉山と共に炭鉱会社から引き継いだ財産の一つであり、夕張市内には60余りのズリ山が存在。
- ・市がズリの採取権を民間に有償で与え、産学金官の連携により、ズリ山の有効活用を図る事業を実施中。

### ■夕張鹿鳴館



夕張鹿鳴館

- ・1913年、北海道炭鉱汽船株式会社が役員交歓や来賓接待などを目的に「北炭鹿の谷倶楽部」として建設した施設。経済産業省が「近代化産業遺産」に認定。現在は、レストランと宿泊施設を開設。

### ■空知産炭地域の中の夕張

- ・空知産炭地域には多くの炭鉱資源があり、夕張は炭鉱資源を生かした地域再生の拠点の一つに位置付け。



資料：北海道空知総合振興局「元気そらち！産炭地域活性化戦略」に加筆

### ■その他の歴史資源

- ・滝の上水力発電所
- ・石炭大露頭
- ・三弦トラス橋(シューパーダムの完成により水没)
- ・旧三菱石炭炭業大夕張鉄道 南大夕張駅
- ・旧北炭夕張炭鉱天龍坑口
- ・日本聖公会夕張教会堂(現日本キリスト教会夕張教会堂)
- ・旧北炭楓坑発電所 など

### (3) 農業

#### ■夕張メロン



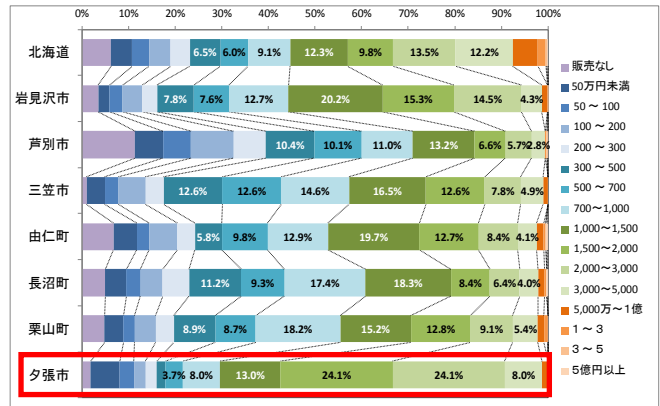
- ・夕張の狭い地形の中で収益性の高い農作物の生産を目指し、メロンの新しい品種の研究、育成が行われ、S35年に品種開発されてから生産が続けられている。
- ・夕張メロンの生産は、農協・生産者が一体となった体制で行われ、採種から生産まで一元管理されている。
- ・夕張メロンには細かな出荷規格があり、特に「共撰メロン」に区分される優秀なメロンには「特秀・秀・優・良」の4段階の等級とそれぞれの規格が設けられている。
- ・夕張メロンの出荷は5月中旬～8月までの約3カ月間のみ。

#### ■道の駅「夕張メロード」



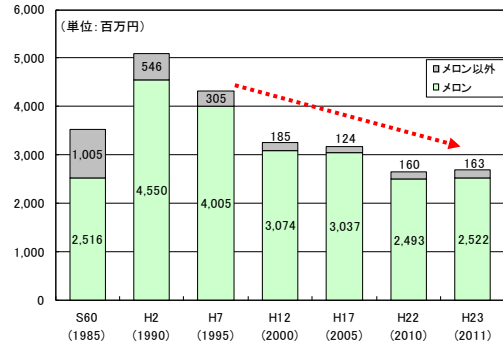
- ・夕張ICから車で5分の位置にある、JR新夕張駅に隣接したアクセスの良い場所に立地。

【図表】農産物販売規模額別経営体数の割合



資料：農林水産省「農林業センサス2010」

【図表】夕張市の農業生産額の推移



資料：夕張市資料

#### (4) 観光・交流

##### ■ マウントレースイスキー場



- ・新千歳空港から1番近いスキー場。
- ・ホテルからゴンドラ乗り場まで直結。

##### ■ 幸福の黄色いハンカチ想い出ひろば



- ・山田洋次監督「幸福の黄色いハンカチ」の黄色いハンカチの幟(のぼり)や炭鉱住宅などをロケ当時のまま保存。
- ・壁一面に来訪客による黄色いメッセージカードが埋め尽くされている。

##### ■ ゆうばり国際ファンタスティック映画祭



- ・1990年から毎年2月末に開催する映画祭。
- ・新しい才能の発見・育成、映画による世界各国間の文化交流・相互理解の促進を通じて、市民、映画人、観客の三者のコミュニケーションによる出会いの場を提供。

##### ■ 宿泊施設

###### 【ホテルマウントレースイ】



###### 【ゆうばりホテルシューパーロ】



###### 【その他】

- ・合宿の宿 ひまわり
- ・大夕張山荘「北の宿」
- ・大黒屋旅館
- ・ビジネスホテルYUUBARI
- ・夕張フォレストユースホステル
- ・交流の里「きずな」

##### ■ サン格林スポーツヴィレッジ (夕張市平和運動公園)



- 【施設】
- ・第1球技場
  - ・第2級議場
  - ・多目的運動広場
  - ・陸上競技場
  - ・サン格林スタジアム

- ・Jリーグのキャンプや日ハムイースタンリーグ戦など、サッカー、ラグビー、野球などの合宿に利用。

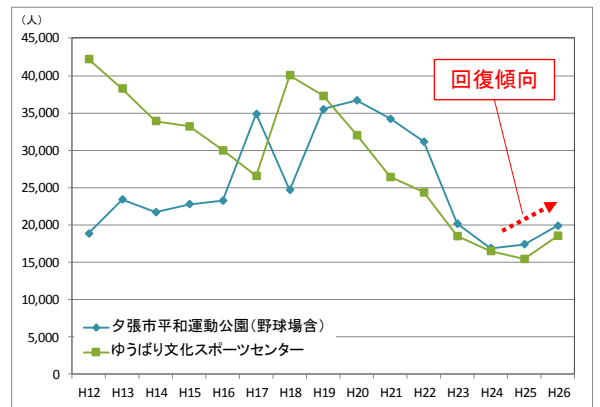
##### ■ ゆうばり文化スポーツセンター



- 【施設】
- ・メインアリーナ (2階固定554席、ロールバックスタンド 516席)
  - ・サブアリーナ
  - ・トレーニング室
  - ・柔道場
  - ・幼児軽運動場
  - ・研修室

- ・S60年竣工。・ゆうばり国際映画祭のメイン会場として使用した超大型スクリーンと音響設備も備え、コンサート会場としても使用可能。

【図表】 施設利用者数の推移



資料: 夕張市資料

##### ■ その他施設

- ・ゆうばりテニスコート
- ・夕張市民健康会館
- ・夕張市市営球場 (鹿の谷球場、緑ヶ丘球場)
- ・パークゴルフ場 (虹ヶ丘パークゴルフ場、紅葉山パークゴルフ場) など

## (5) 交通利便性

### ■ 鉄道の運行、ICの立地

- ・夕張市内の鉄道路線は、石勝線（本線）と石勝線夕張支線が運行。新夕張駅には特急が停車する。
- ・紅葉山地区には、道東自動車道の「夕張IC」が立地。新千歳空港や苫小牧港まで車で約1時間、札幌までは約1時間30分の距離にある。

【図表】 主要地とのアクセス  
(沼ノ沢から)

新千歳空港	約52km※ (約60分)
苫小牧港	約57km※ (約65分)
札幌	自動車:約85km※ (約90分) 電車(新夕張駅から): 約87km(65分)

※高速道路利用  
資料:夕張緑陽団地パンフレット

### ■ 主な立地企業

- ・シチズン夕張(株)
- ・マルハニチロ(株)
- ・(株)夕張ツムラ など

【図表】 夕張市周辺の道路ネットワーク





## 2 アンケート調査結果

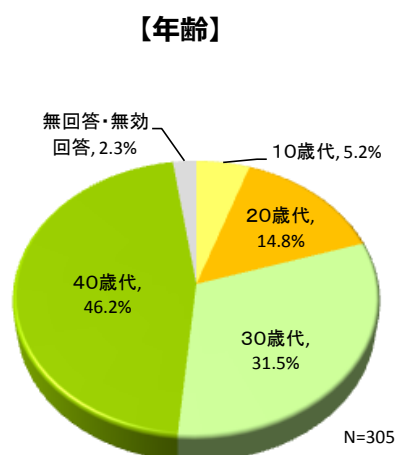
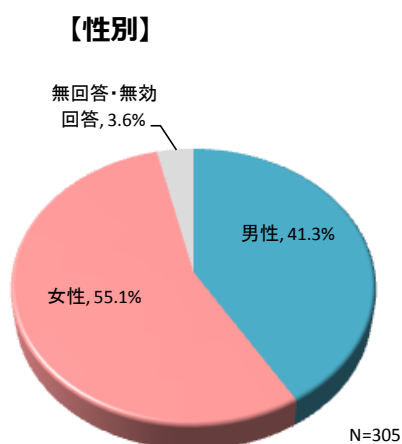
### 2-1 調査概要

将来の人口を展望し、人口減少の抑制に向けて「自然減少の抑制」と「社会減少の抑制」という2つの観点から施策の展開を図るため、市民の結婚・出産・子育てに関する意向や、社会増減の要因となる転入・転出の実態及び意向、さらには将来の進学や就職に関する意向など、現状における市民意識を把握するため、以下4種のアンケートを実施した。

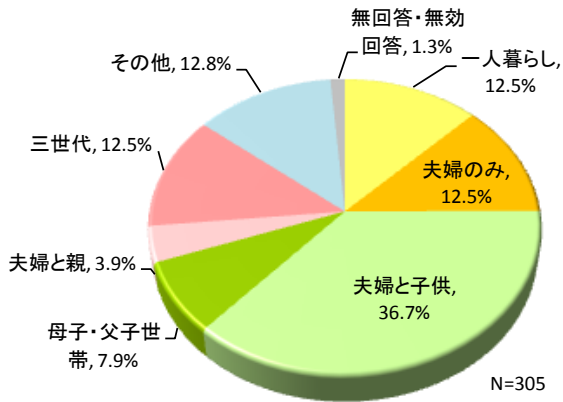
	①市民 アンケート	②通勤者 アンケート	③高校性 アンケート		④中学生 アンケート
対象	夕張市内に居住する18～49歳の市民	市内の事業所に市外から通勤して勤務している就業者	・夕張高校に通学する生徒109名 ・夕張高等養護学校に通学する生徒13名	・夕張中学校を卒業後、市外の高校に通学している生徒24名 ・市内に在住し、市外の高等養護学校に通学する生徒2名	夕張中学校生徒119人（3学年）
内容	・居住意向 ・子育て環境	・居住意向 ・通勤状況	・進路希望 ・卒業後の居住意向	・進路希望 ・卒業後の居住意向	・進路希望 ・卒業後の居住意向
配布回収方法	郵送配布 郵送回収	各事業所を通じて配布・回収	高校を通して配布・回収	郵送配布 郵送回収	中学校を通して配布・回収
回答期間	H27.7.30～8.7 9.9～9.18	H27.7月下旬～8.7	H27.7.8～7.24	H27.8.17.～8.28	H27.7.21～7.30
配布数	1,000人	228人	夕張高校：109票 高等養護学校：13票	市外高校：24票 市外高等養護学校：2票	119票
回収数	305人	158人	夕張高校：102票 高等養護学校：10票	市外高校：7票 市外高等養護学校：1票	111票
回収率	30.5%	69.3%	夕張高校：93.6% 高等養護学校：76.9%	夕張高校：29.1% 高等養護学校：50.0%	93.3%

### 2-2 市民アンケート調査

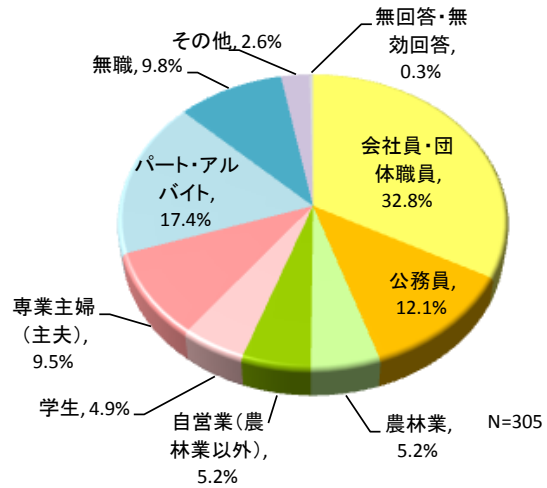
#### (1) 回答者属性



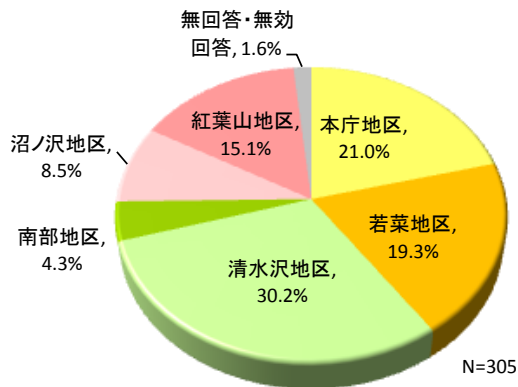
【家族構成】



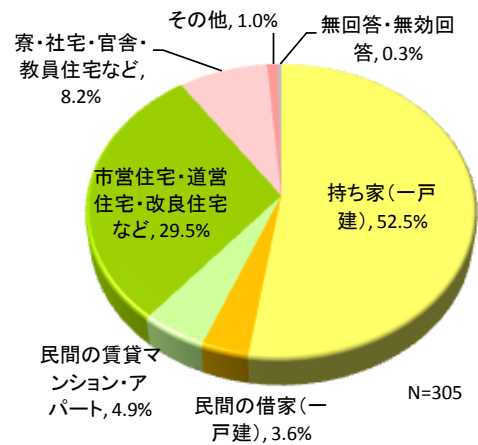
【職業】



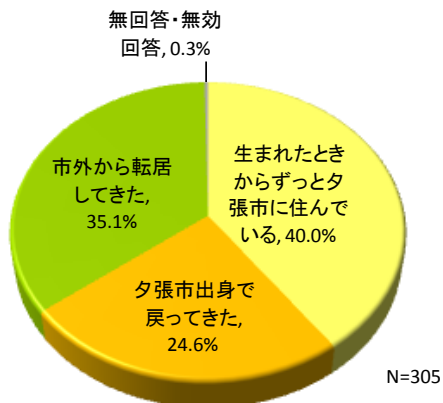
【居住地区】



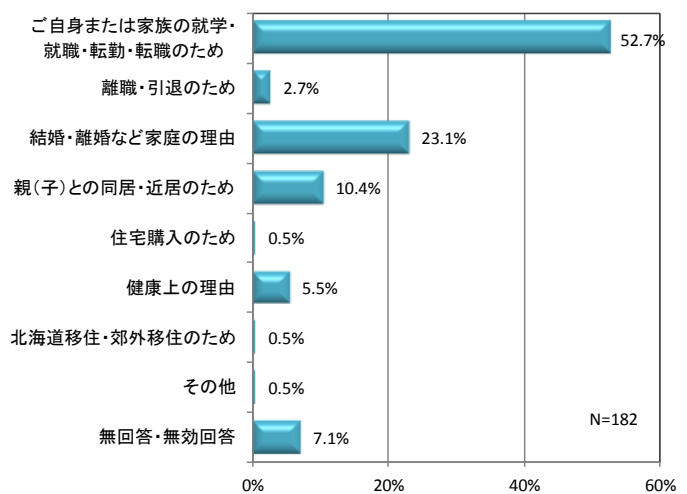
【住宅の種類】



【夕張での居住歴】

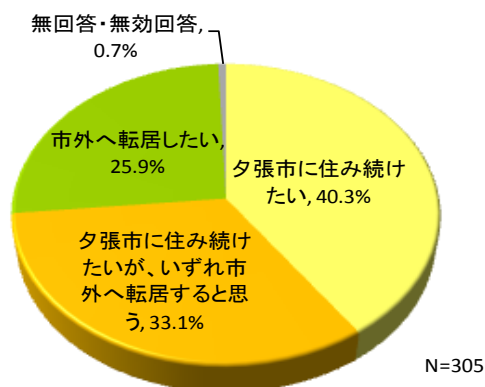


【夕張に住むことになったきっかけ】

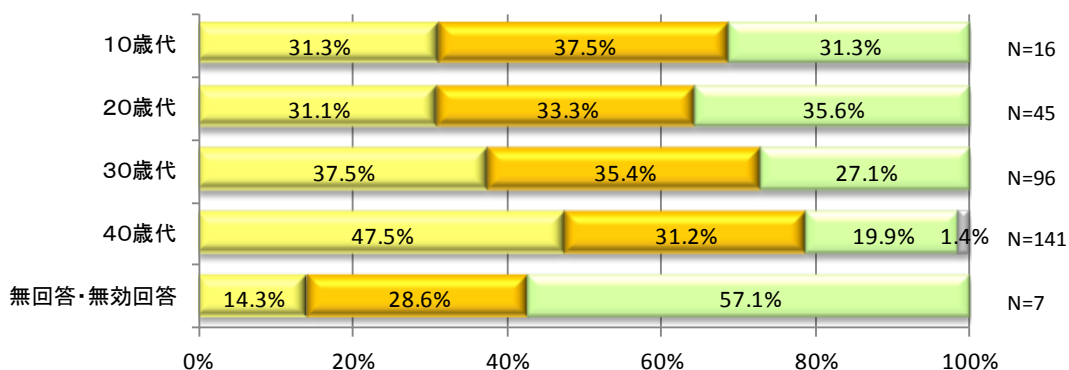


## (2) 今後の居住意向

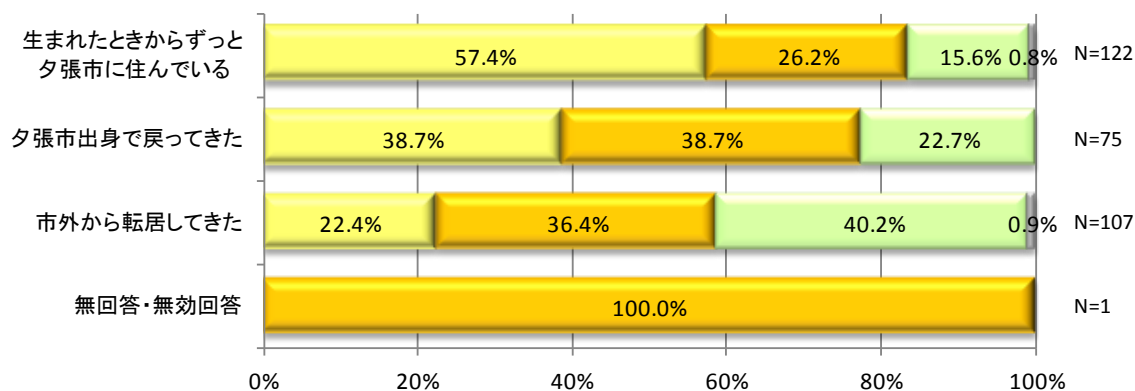
- 「夕張市に住み続けたい」と「夕張市に住み続けたいが、いずれ市外へ転居すると思う」で7割以上を占める。
- 10代～20代よりも30代～40代の方が夕張での居住意向割合は高い。
- 生まれたときからずっと夕張に居住している人より、一度市外に居住した経験のある人のほうが、転出したい割合が高い。



### 【年代別集計】



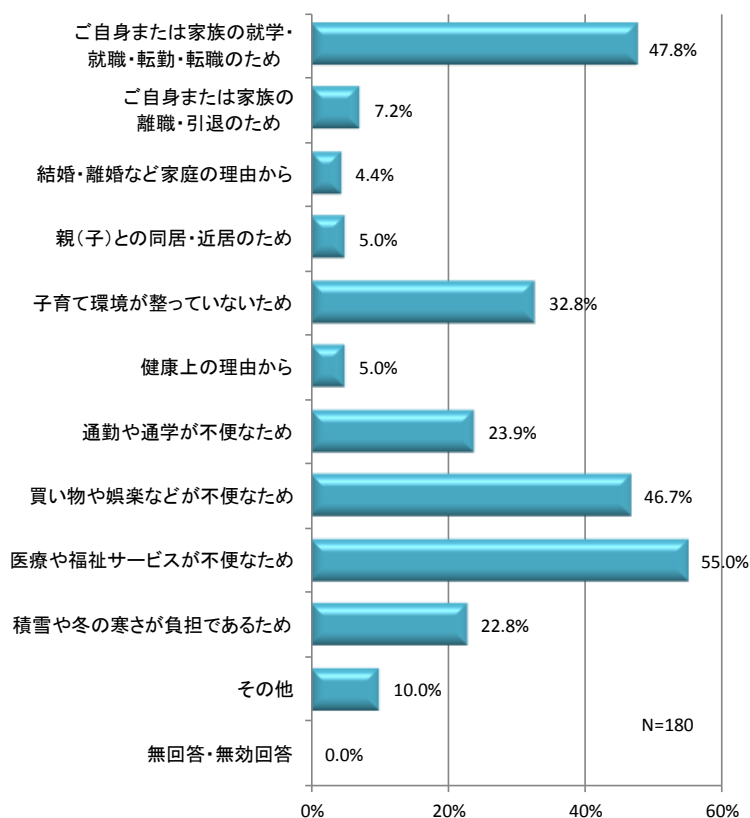
### 【居住歴別集計】



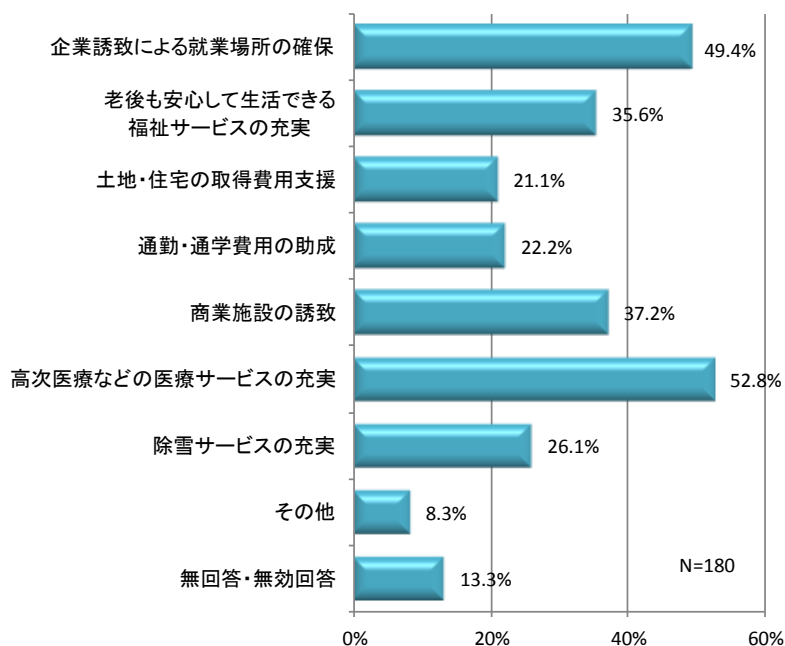
### (3) 市外へ転居するまたは転居したい理由

- 「医療や福祉サービスが不便なため」が過半数を超えて最も多く、次に「ご自身または家族の就学・就職・転勤・転職のため」「買い物や娯楽などが不便なため」がそれぞれ5割近くと、3項目が突出している。
- 解決に向けては、「高次医療などの医療サービスの充実」が過半数を超えて最も多く、次いで「企業誘致による就業場所の確保」が約5割となっており、これら2項目が突出している。

【市外へ転居するまたは転居したい理由】

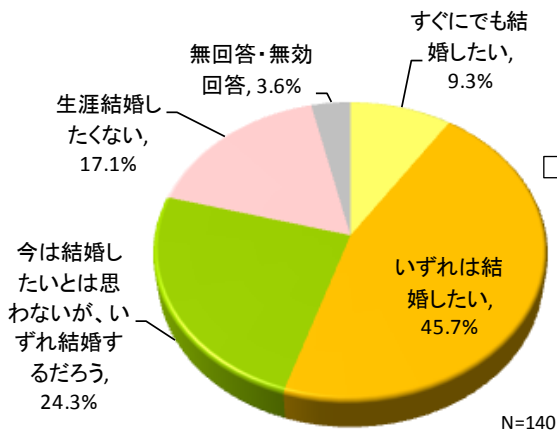


【解決に向けて市が積極的に取り組むべき対策】



#### (4) 結婚の希望

- 「結婚していない」回答者のうち、「すぐにでも結婚したい」「いずれは結婚したい」の割合が合計で55.0%となっている。
- このうち、「20代・30代」の「女性」で集計すると、「すぐにでも結婚したい」「いずれは結婚したい」の合計は65.9%となる。
- 全国と北海道における、未婚女性（18～34歳）の「生涯の結婚意思あり」の割合と比べると、全国が89.4%、北海道が84.1であり、夕張市の割合は低い。



【未婚女性（20代～30代）の「すぐにでも結婚したい」「いずれは結婚したい」の割合】

夕張市	65.9%
-----	-------

【参考：未婚女性（18～34歳）の「生涯の結婚意思あり」の割合】

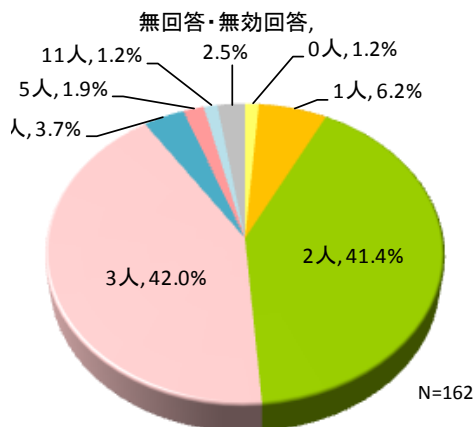
	結婚意思あり
北海道	84.1%
全国	89.4%

資料：国立社会保障・人口問題研究所のワーキングペーパー（平成22年調査の分析）による。  
 （国立社会保障・人口問題研究所 Working paper Series(J) No12 出生動向の観点から見た出生動向基本調査の精度評価（石井太、岩澤美帆）より。）

#### (5) 理想と実際の子どもの人数

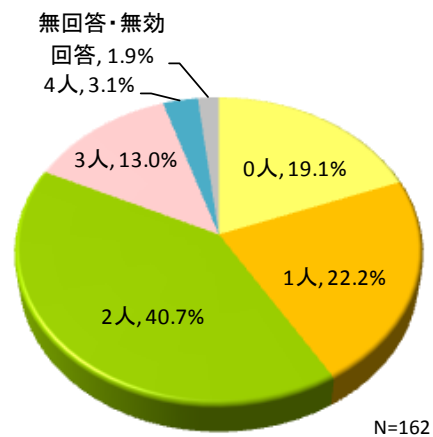
- 理想とする子ども人数は平均 2.59 人に対して、現在いる子ども人数は平均 1.58 人と、約 1.01 人の差がある。
- 現在の子どもの人数が理想とする人数より少ない場合の理由として、「産科小児科など医療環境が不便」が約 41%と最も多く、次いで「子育て・教育費がかかりすぎる」「仕事との両立が困難」が約 36%となっている。

【理想の子ども人数】



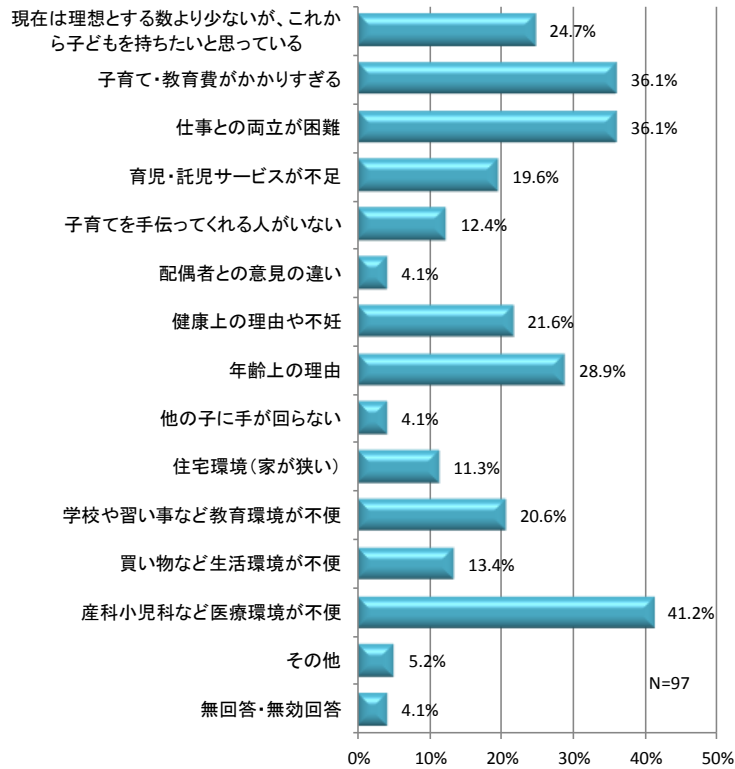
⇒ 平均：2.59人 ※既婚者のみ

【現在の子どもの人数】



⇒平均：1.58人

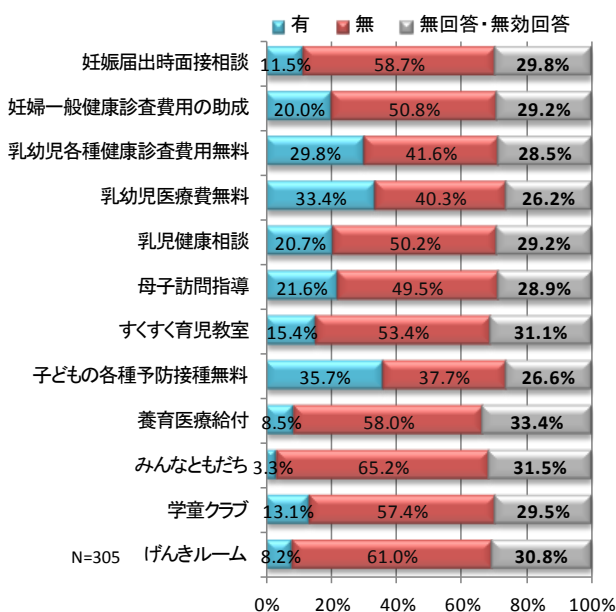
## 【現在の子ども的人数が理想とする人数より少ない場合、その理由】



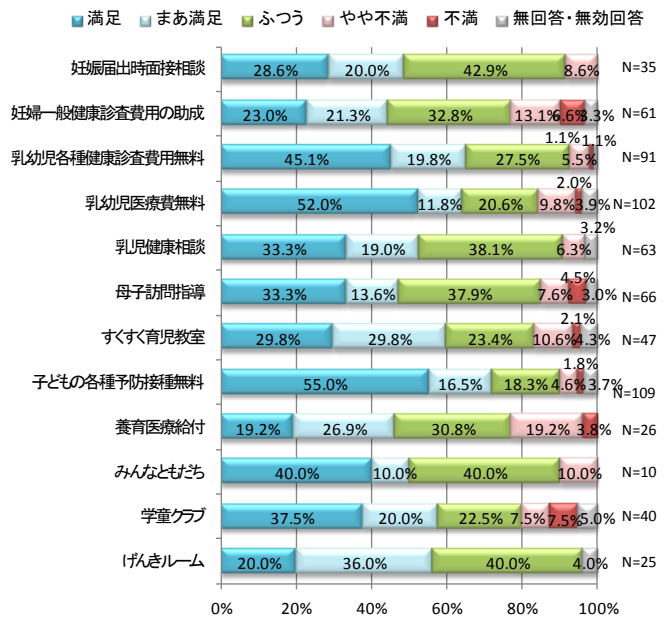
## (6) 夕張市の結婚・出産・子育てに関する支援策の利用経験と満足度

- 「子どもの各種予防接種無料」が 35.7%と最も多く、次に「乳幼児医療費無料」が 33.4%、「乳幼児各種健康診査費用無料」が 29.8%と続く。3 施策の満足度は、どれも「満足」が 45%以上と最も高い。
- どの施策も「満足」「まあ満足」の合計で 4 割以上を占める。一方、「妊婦一般健康診査費用の助成」「養育医療給付」は「不満」「やや不満」が 20%以上を占め、不満の割合が高い。

### 【支援策の利用経験】

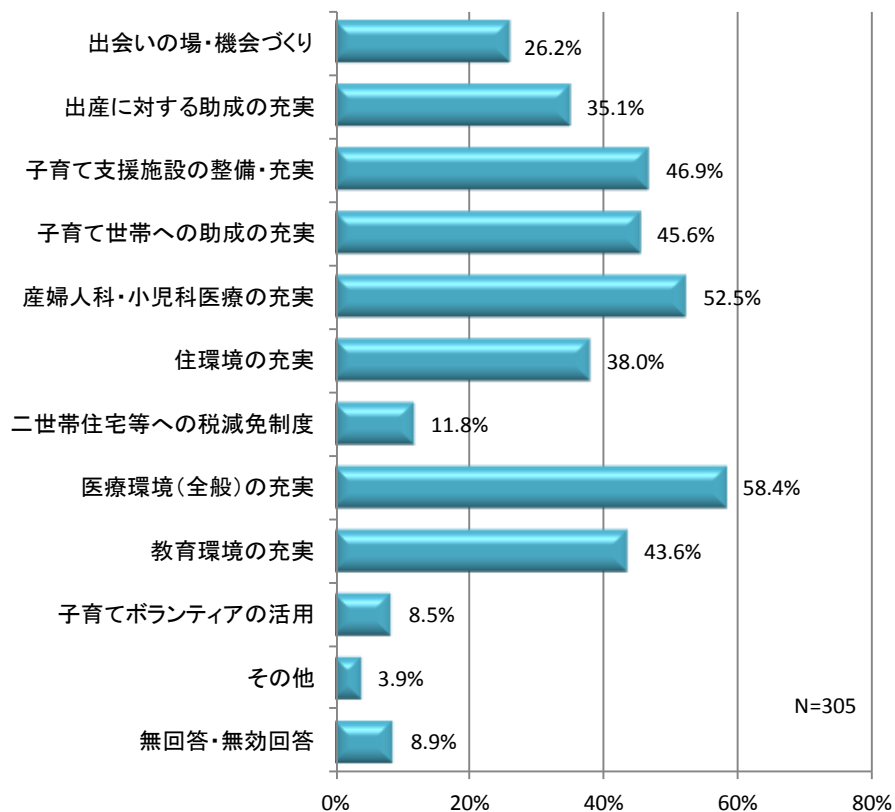


### 【支援策の満足度】



### (7) 結婚・出産・子育て支援のために、市が積極的に取り組むべき施策

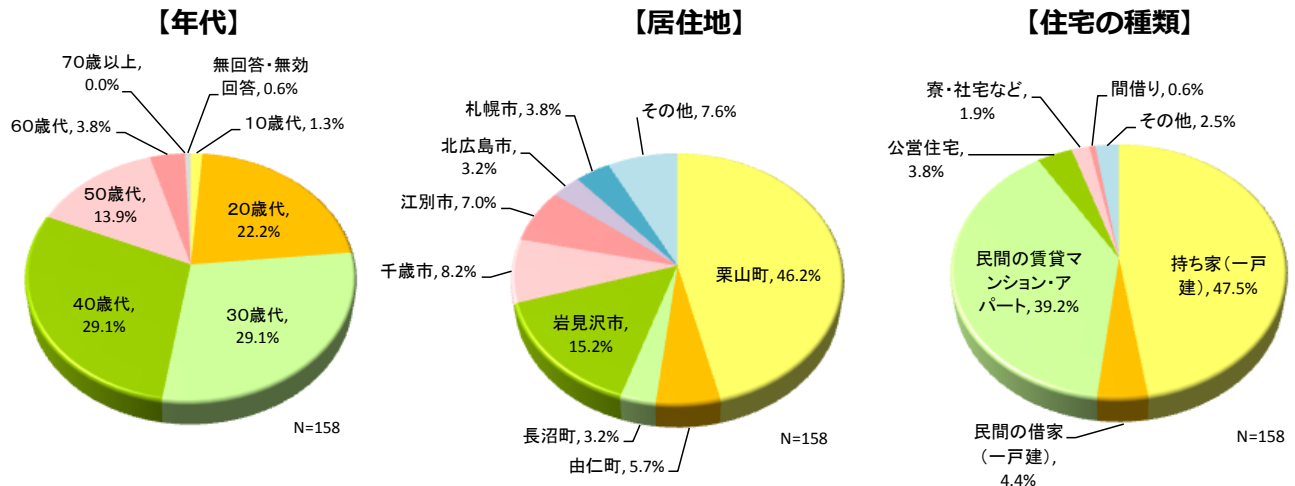
- 「医療環境（全般）の充実」が 58.4%と最も高く、「産婦人科・小児科医療の充実」が 52.5%と過半数を超え最も多い。
- 次に、「子育て支援施設の整備・充実」「子育て世帯への助成の充実」「教育環境の充実」が、4割を超えて高くなっている。



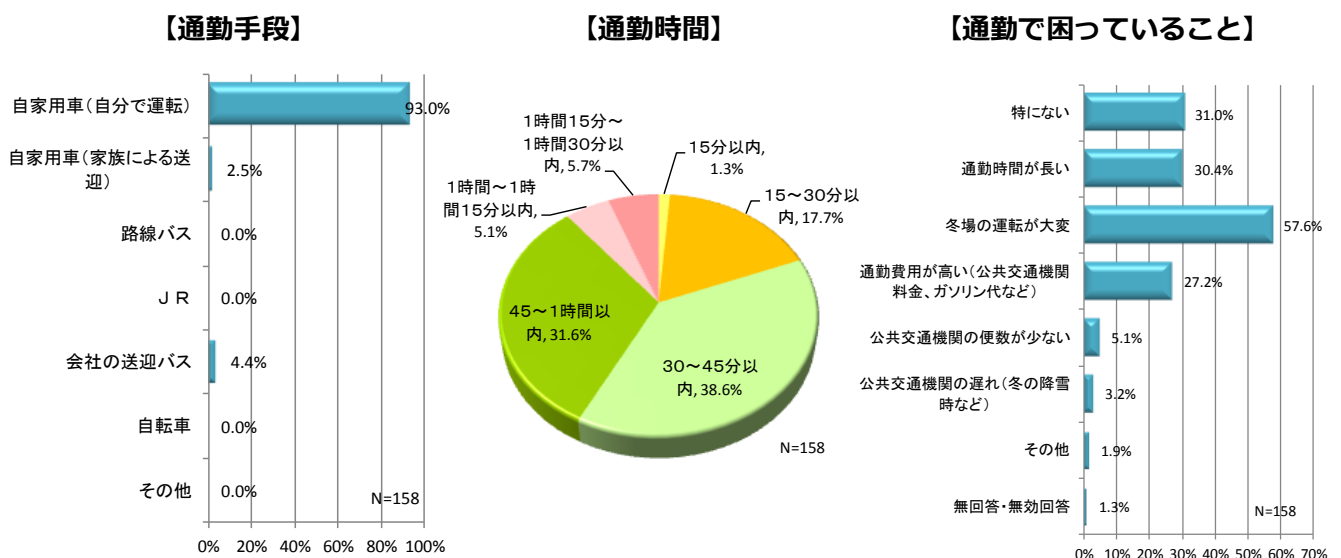
## 2-3 通勤者アンケート調査

### (1) 回答者属性

- 年代は、30代、40代がそれぞれ約30%、20代が約22%で全体の約8割を占める。
- 居住地は、栗山町が約46%、岩見沢市が約15%。
- 住宅の種類は、持ち家（一戸建）が約48%と半分近くを占め、次に民間の賃貸マンション・アパートが約39%となっている。



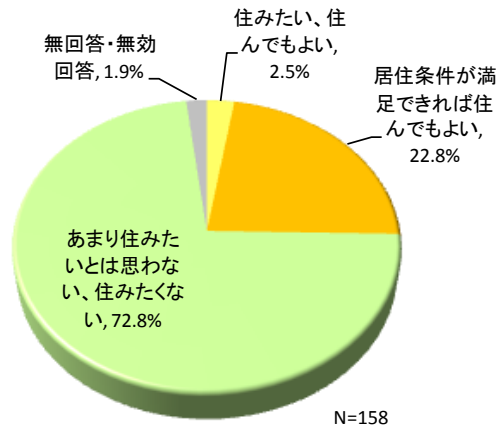
- 通勤手段は、ほとんどが自家用車（自分で運転）で、30～1時間かけて通勤している方が全体の7割を占めている。
- 通勤で困っていることとしては、「冬場の運転が大変」が過半数を超えており、突出している。



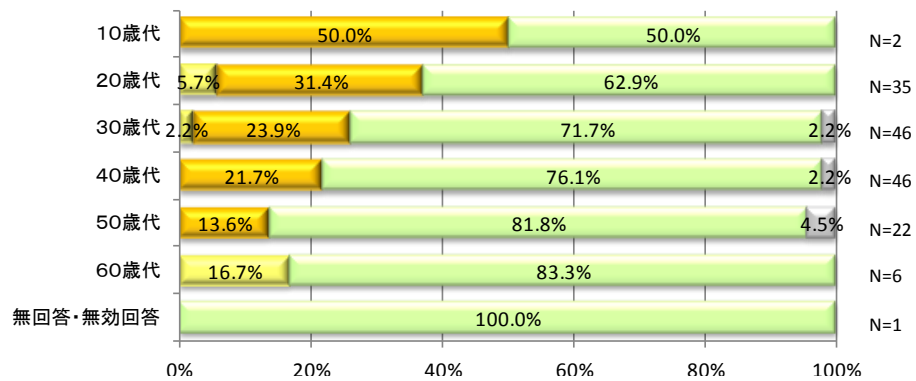


## (2) 夕張市への居留意向

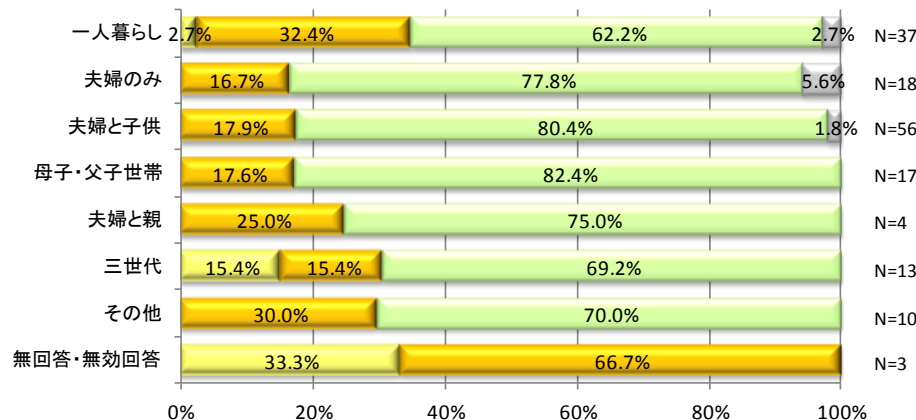
- 市外からの通勤者にとって、「あまり住みたいとは思わない・住みたくない」割合が多いが、若年層ほど「居住条件が満足できれば住んでもよい」割合が高い。
- 「一人暮らし」の「居住条件が満足できれば住んでもよい」は32.4%と高く、「三世代」は「住みたい、住んでもよい」と「居住条件が満足できれば住んでもよい」の合計した割合が約31%。



### 【年代別集計】



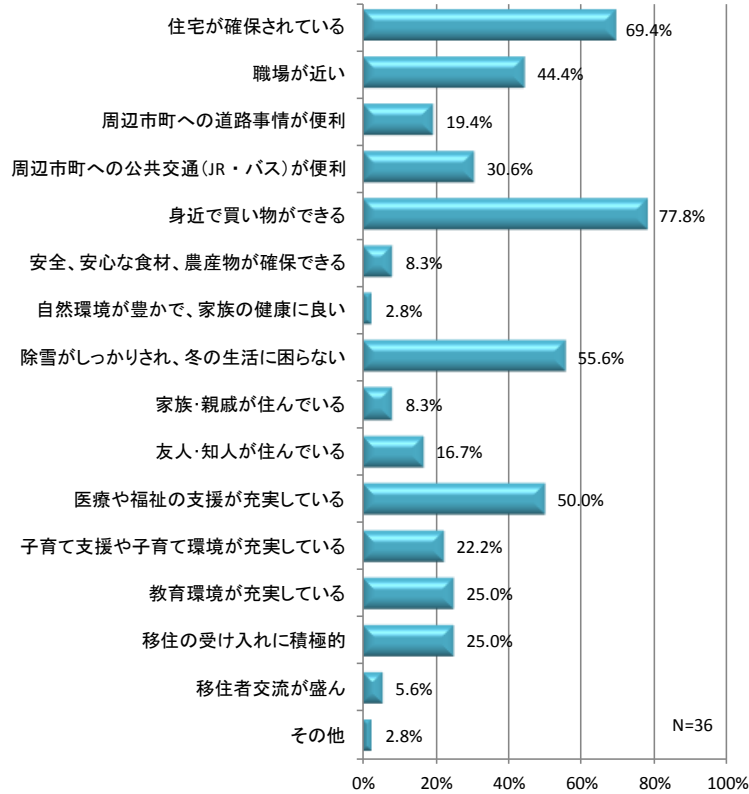
### 【家族構成別集計】



- 住みたい、住んでもよい
- 居住条件が満足できれば住んでもよい
- あまり住みたいとは思わない、住みたくない
- 無回答・無効回答

### (3) 満足できる居住条件・夕張で住む場合希望する住宅

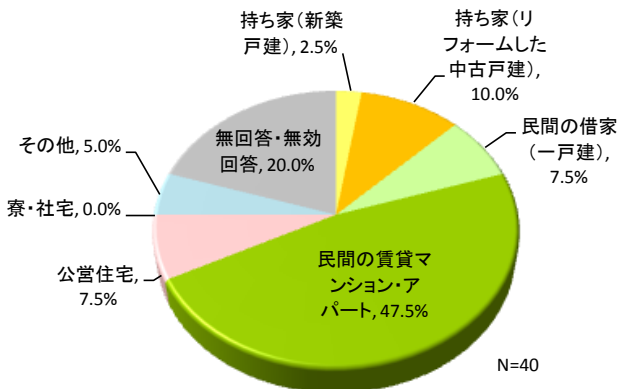
- 満足できる居住条件は、「身近で買い物ができる」が約 78%と 8 割近く、次いで「住宅が確保されている」が約 69%と約 7 割となっている。
- さらに、「除雪がしっかりされ、冬の生活に困らない」が約 56%、「医療や福祉の支援が充実している」が 50%と、それぞれ半数以上を占めている。



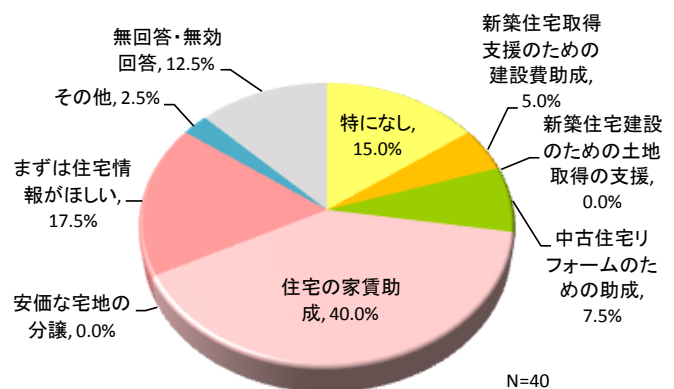
### (4) 夕張市で住む場合、希望する住宅・住宅支援策として選ぶもの

- 夕張で住む場合、希望する住宅として「民間の賃貸マンション・アパート」が約 48%と半数近くを占めている。
- 住宅支援策としては、「住宅の家賃助成」が 40%、次いで「まずは住宅情報がほしい」が約 18%だった。

【夕張で住む場合希望する住宅】

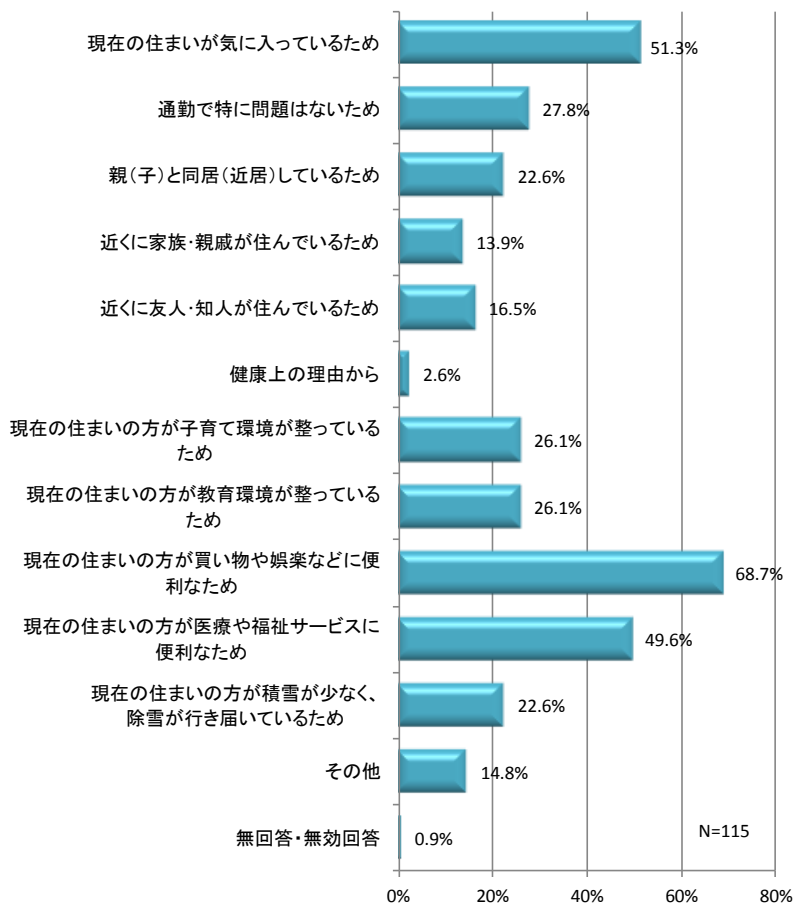


【夕張で住む場合、住宅支援策として選ぶもの】



### (5) 「あまり住みたいとは思わない、住みたくない」とした理由

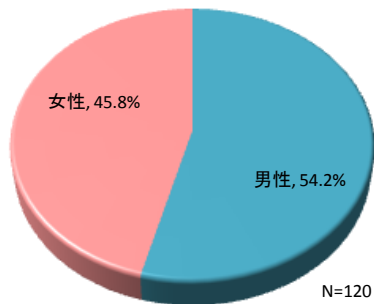
- 「現在の住まいの方が買い物や娯楽などに便利なため」が約69%と7割近い。
- また、「現在の住まいが気に入っているため」「現在の住まいの方が医療や福祉サービスに便利なため」が約半数となっている。



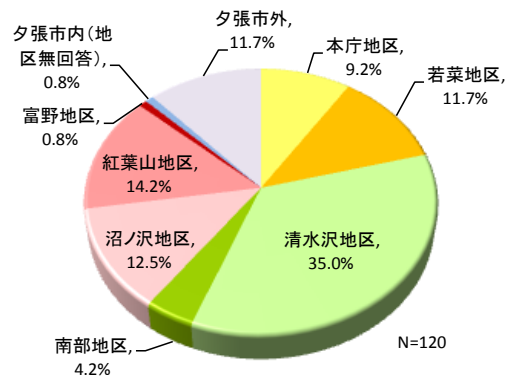
## 2-4 高校生アンケート調査

### (1) 回答者属性

【性別】



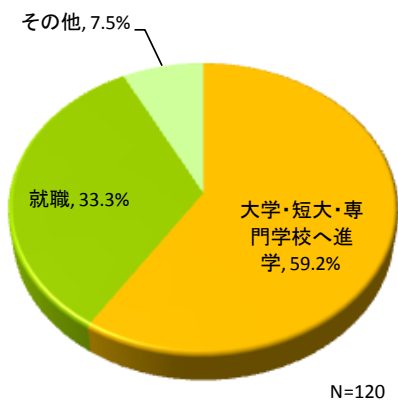
【居住地区】



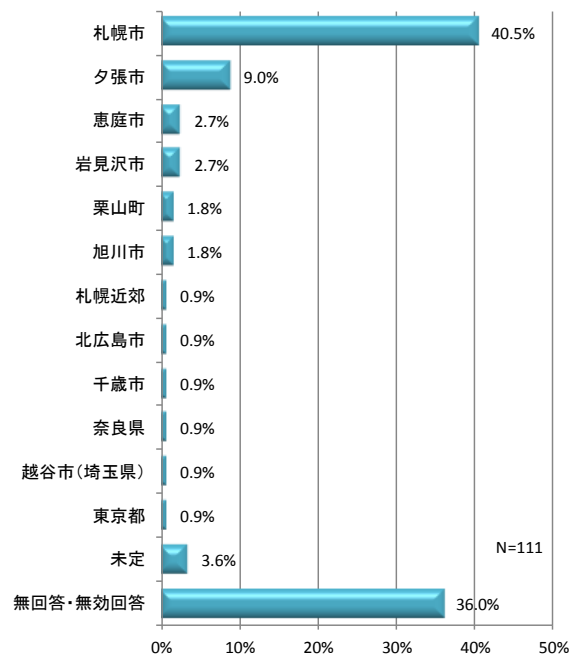
### (2) 高校卒業後の進路

- 高校卒業後は、「大学・短大・専門学校へ進学」が約 59%と約 6 割を占め、「就職」が約 33%を占める。
- 進学先・就職先としては、「札幌市」が約 4 割と最も多く、次いで「夕張市」が 9.0%と 1 割近くになっている。

【高校卒業後の進路】

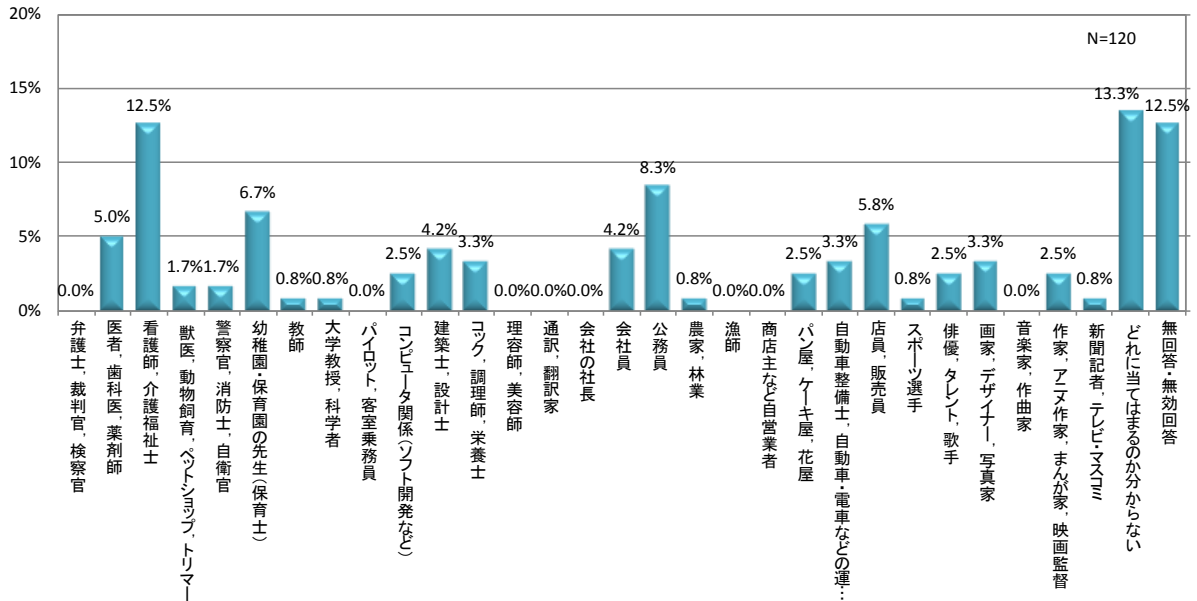


【進学先・就職先の市町村（複数回答）】



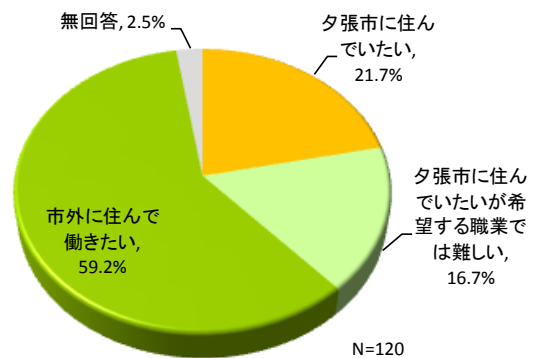
### (3) 最も就きたい職業に近い職種

- 最も就きたい職業に近い職種としては、「看護師、介護福祉士」が多く、次いで「公務員」が多くなっている。

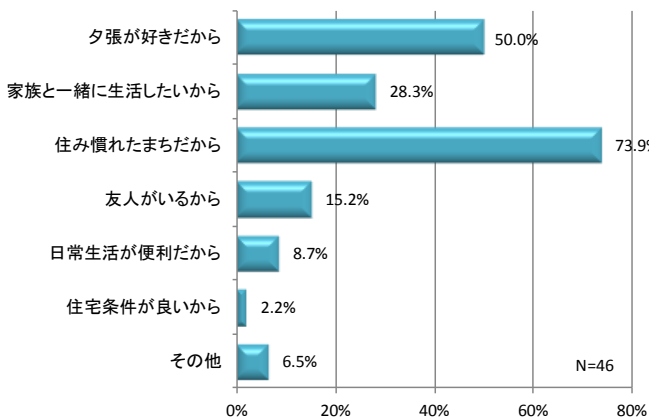


### (4) 就職後の夕張市への居住意向

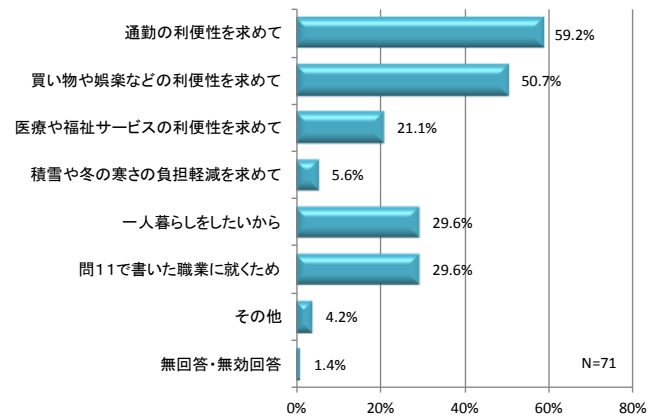
- 「市外に住んで働きたい」が約 59%と約 6 割を占め、「夕張市に住んでいたい」は約 22%となっている。
- 就職後に夕張市に住んでいたい理由として「住み慣れたまちだから」が約 74%、次いで「夕張が好きだから」が 50%と続く。
- 反対に、市外に住みたい理由は、「通勤の利便性を求めて」が約 59%、「買い物や娯楽などの利便性を求めて」が約 51%となっている。



#### 【就職後に夕張市に住んでいたい理由】

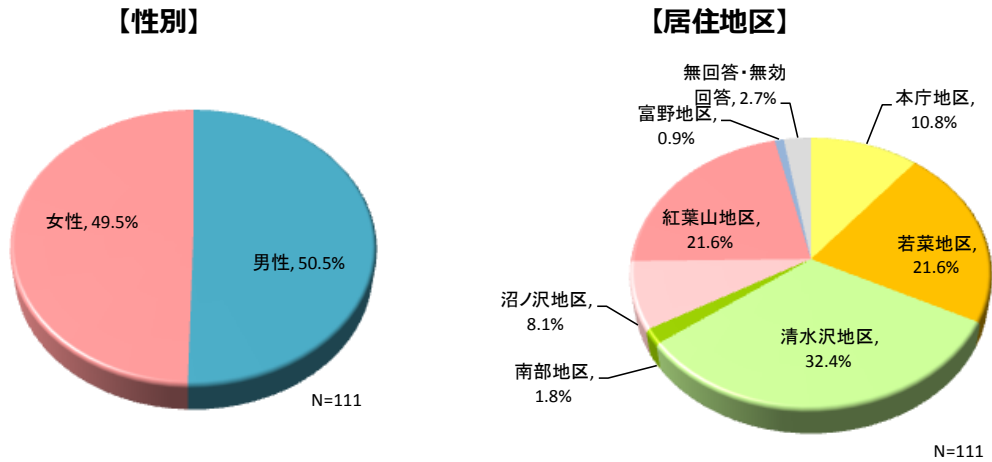


#### 【就職後に市外に住みたい理由】



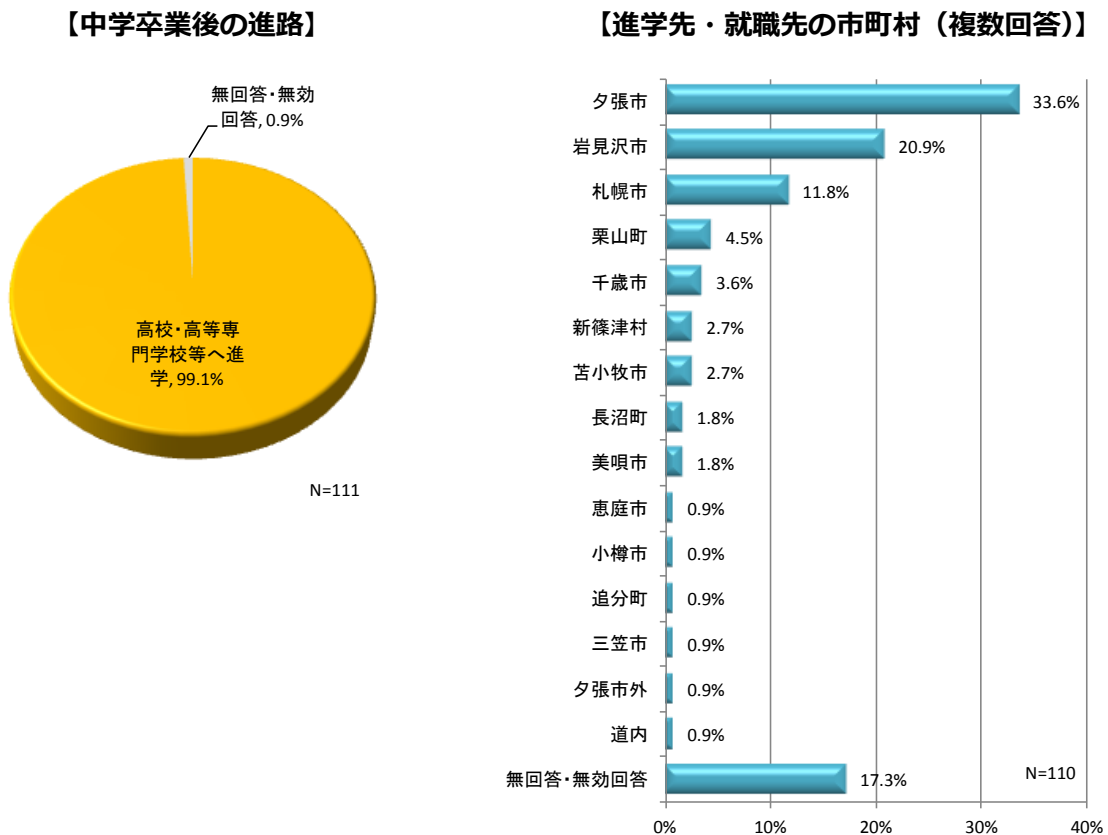
## 2-5 中学生アンケート調査

### (1) 回答者属性



### (2) 中学卒業後の進路

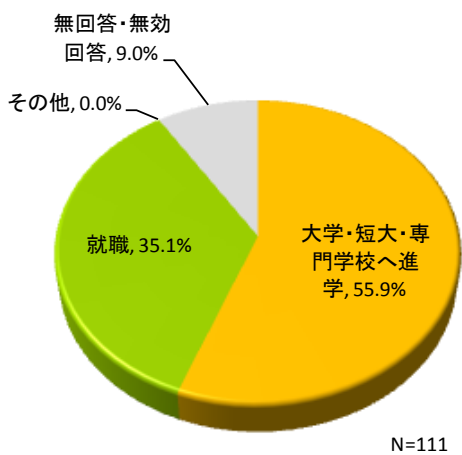
- 中学卒業後は、ほぼ全員が「高校・高等専門学校等へ進学」。
- 進学先・就職先としては、「夕張市」が 33.6%と最も多く、次いで「岩見沢市」が約 21%となっている。



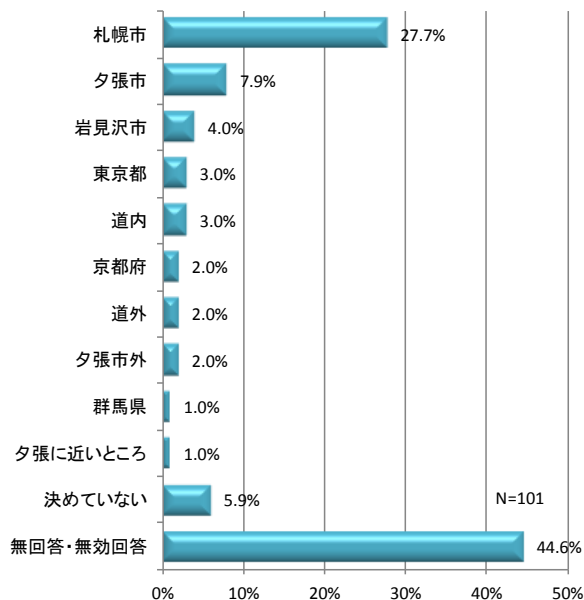
### (3) 高校卒業後の進路

- 高校卒業後は、「大学・短大・専門学校へ進学」が約 56%を占め、「就職」が約 35%を占める。
- 進学先・就職先としては、「札幌市」が約 28%と最も多く、次いで「夕張市」が 7.9%となっている。
- 「高校生アンケート」の結果とほぼ同様の結果となった。

#### 【高校卒業後の進路】

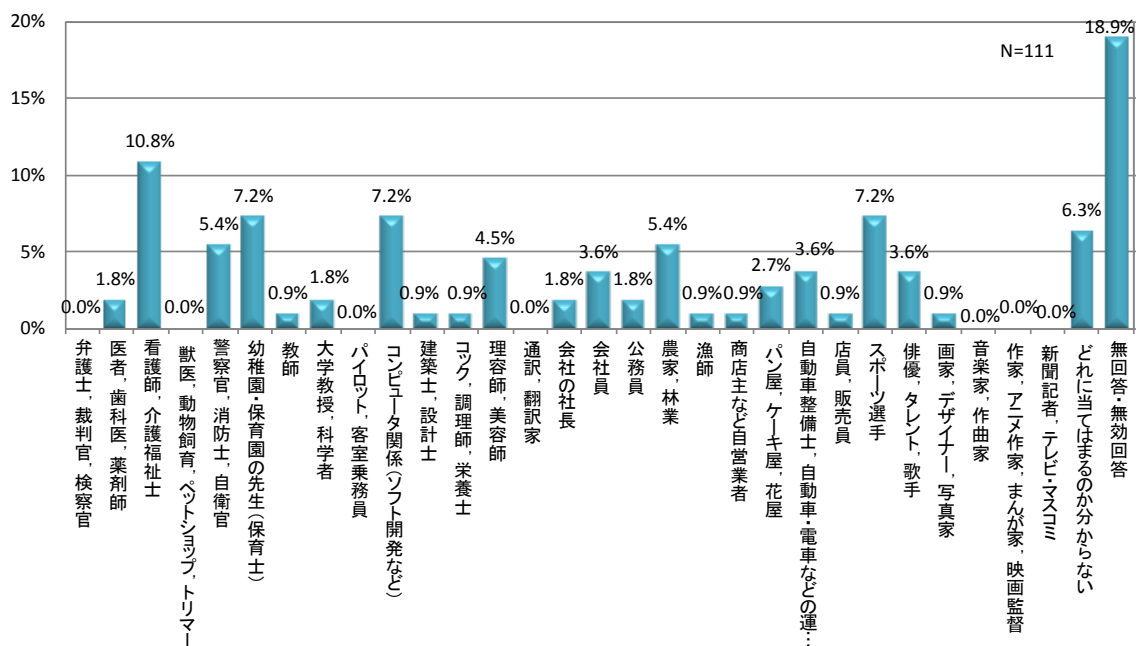


#### 【進学先・就職先の市町村（複数回答）】



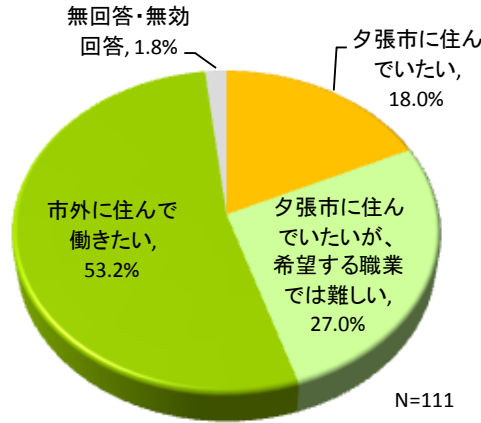
### (4) 最も就きたい職業に近い職種

- 最も就きたい職業に近い職種としては、「看護師、介護福祉士」が最も多く、次いで「幼稚園・保育園の先生（保育士）」、「コンピューター関係（ソフト開発など）」、「スポーツ選手」が多い。

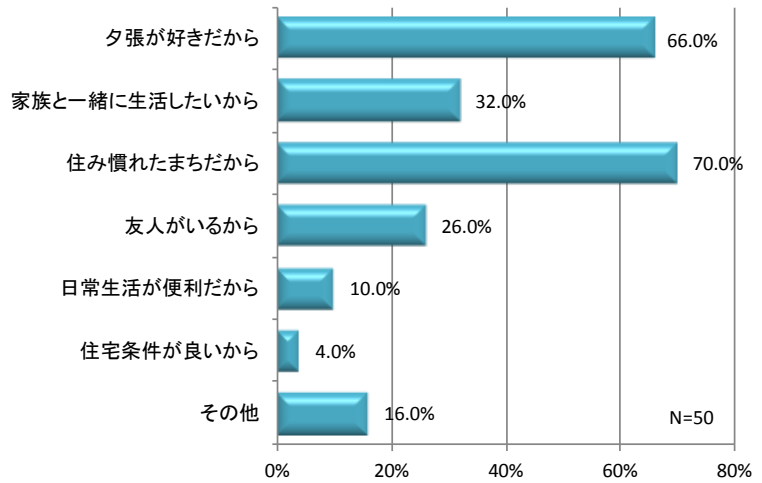


**(5) 就職後の夕張市への居留意向**

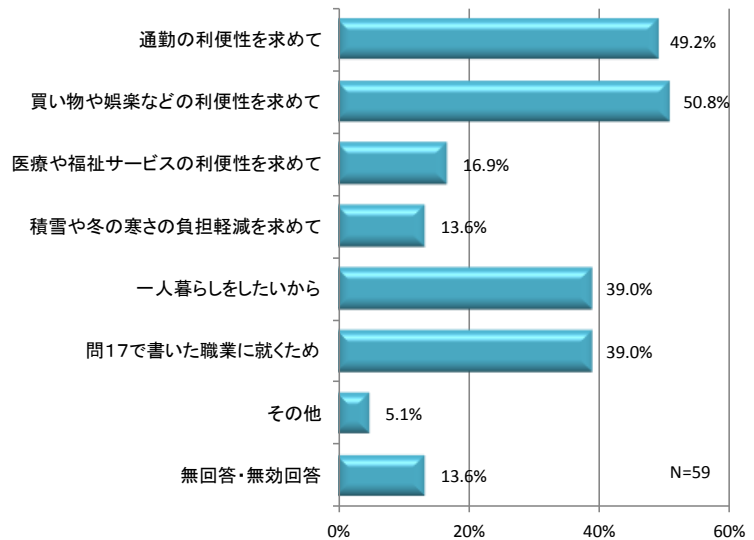
- 「市外に住んで働きたい」が最も多いが、「夕張市に住んでいたい」と「夕張市に住んでほしいが、希望する職業では難しい」を合計すると45%と半数近い。
- 就職後に夕張市に住んでほしい理由として「住み慣れたまちだから」が70%、次いで「夕張が好きだから」が66%と続く。
- 反対に、市外に住みたい理由は、「買い物や娯楽などの利便性を求めて」が約51%、「通勤の利便性を求めて」が約49%と半数近くになっている。
- 「高校生アンケート」とほぼ同様の結果となった。



**【就職後に夕張市に住んでほしい理由】**



**【就職後に市外に住みたい理由】**





### 3 ヒアリング調査結果

策定委員会のアドバイザーである北海道大学瀬戸口教授と策定委員である同研究室学生により、本総合戦略の策定委員や、「夕張市まちづくりマスタープラン」の策定委員として参加した市民、市内保育所の利用者、市内ふれあいサロンの利用者、市内企業の従業員、夕張市役所内の拠点整備ワーキンググループに参加した職員らにヒアリング調査を行い、その結果を総合戦略の検討に反映した。

※調査結果の著作権は北海道大学工学部都市地域デザイン学研究室に帰属する。

#### ①人口減少都市における集約型コンパクトシティ形成に向けた拠点像

##### 【住民が夕張市の都市拠点に求める重要機能】

###### 優先順位1 居住の場所

- ・移住や定住者のための住宅があること

###### 優先順位2 人との交流によって安心を支える場所

- ・互いに普段から見守り会えるための場や体制があること
- ・安心して遊べる公園や児童館、放課後の居場所があること
- ・証明書の発行などの行政サービスを受けられる場所があること
- ・色々な世代の住民が気軽に集まったり、話したりできる場所があること

###### 優先順位3 市内全体の活動の中心となる場所

- ・保育園や幼稚園があること
- ・バスターミナルなど市内・市外とつながる交通結節点があること
- ・雪処理の負担が改善される住宅があること
- ・企業を誘致し働く場所や選択肢があること
- ・働くための周辺環境が整っていること（保育園など）
- ・介護の不安を抱えたときに入れる施設や受けられるサービスがあること
- ・日常の買い物ができる場所があること（現状のcoopや商店街とも絡めて）

#### ②地方小都市における人口減少を抑制するためのまちづくり

##### 【人口減少を抑制するための方策】

夕張市に、総合的に整備すべき決定要因【教育】【住環境】【医療・福祉】【経済】【利便性】

教育 [拠点]部活動の充実や専門学科の整備等の夕張高校の充実/塾や習い事等の教育関連施設  
[市内]保育料の値下げ等の経済支援の充実 [市外]市外高校へのスクールバス等の公共交通

住環境 [拠点]家賃の安い民間賃貸住宅等の中間所得者向け住宅

医療・福祉 [拠点]小児科等の医療 [市内]出産の経済支援 [市外]市外と連携した緊急・専門医療

経済 [拠点]主婦の職場等の雇用環境 [市内]税金や公共料金等の経済負担の軽減

利便性 [拠点]夜間営業のスーパー等の最低限の整備 [市外]その他の品目は市外の店舗と連携

